

○七番 佐野常民 本官ハ審査ノ文字ヲ不可トシ「大政ニ及ブヲ得ズ」ノ句ハ要用トスレト此章ノ結尾ニ置クヲ可トシ出納決算云々モ第一條ニ掲クルニモ及ハサレハ第六條ノ次ニ掲ケントス故ニ前論ノ如キ今諸議官ノ議ヲ參酌シ別ニ修正説ヲ出サントス五番ノ説ニ同意スル能ハズ

○六番 柳原前光 其説ヲ駁シテ曰ク七番ハ審査ヲ否トシテ報告トシ大政云々ヲ本章ノ末條ニ加ヘ出納云々ヲ第六條ノ次ニ加ヘント説クト雖未タ全備ノ修正案ヲ見サレハ之ヲ可否スルヲ能ハスト雖到底報告トスルハ不可ナリ又大政云々モ府縣會ノ務ヲ掲ケシ上ハ必シモ之ヲ制スルヲ要用トセサルナリト

○十五番 福羽美靜 「大政ニ及ブヲ得ズ」ノ句緊要ナリ決シテ刪ル可ラズ

凡ソ事ハ的カアレハ採ノアル道理ニテ此地方税云々ハ的ナリ大政云々ハ採ナリ共ニ其一ヲ缺ク可ラズ故ニ本官ハ「府縣會ハ該府縣ノ事ヲ議スルノ所ニシテ專ラ地方税徵收方法ヲ議シ其總額ヲ豫定シ前年度ノ出納決算ヲ審査スルヲ得」ノ句ヲ得「大政ニ及ブヲ得ズ」ト修正セント欲ス併五番ノ修正カ問題中ナレハ本官ノ修正ハ追テ之ヲ提出セント

○廿二番 中島信行 五番ノ修正ハ本案ノ精神ヲ壞ラズシテ能ク文字ノ不便ヲ除却シタリ且本官モ前日ハ「泛ク大政ニ及ブヲ得ズ」ノ句ヲ以テ必要ノ制限ト思惟セシガ熟考スルニ之ヲ存スレバ却テ紛冗ヲ招クヲ恐ル其故ハ既ニ三款ノ主務ヲ掲レバ其他ハ一切議ス可ラズトノ意自ラ言外ニ顯ハレ其制限固ト分明ナルニ又重ヌルニ泛ク大政



云々ヲ以テスレバ又一層ノ意ヲ生シテ大政ニ論及スヘカラサルモ小政ニハ論及スルモ妨ナキカトノ惑ヲ生セン是紛冗ヲ招クノ端ナリ五番ノ修正ハ此等ノ病ヲ消除シテ能ク本案ノ精神ヲ明ニス

○一番津田 眞道 五番ノ修正可ナリト雖本官ハ總則ヲ改メテ權限トセントスルノ修正說ヲ有スルヲ以テ五番ニ同意スル能ハズ

○議長 五番修正說ヲ可トスル議官ヲ起立セシム  
起立者四人 少數

○一番津田 眞道 總則ヲ改メテ權限トシ其他ハ只今廢棄セラレシ五番ノ修正ノ如キヲ欲スト

○議長 賛成者ナキヲ以テ之ヲ廢棄ス

○七番佐野 常民 第一條ヲ改メテ府縣會ハ地方稅ヲ以テ支弁スベキ事件

ノ費途及ビ其徵收方法ヲ議シ其總額ヲ豫定ストシ原案第二十五條

ヲ以テ本案第六條ノ次ニ置キ且本章ノ最後ニ府縣會ニ於テハ前條ニ掲ル事件ノ外泛ク大政ニ及ブヲ得ズトノ一條ヲ加ヘントスト

○十番東久世 通禮 賛成

○十三番前島 密 賛成

○八番山口 尙芳 賛成

○議長 問題トス

○廿二番中島 信行 其旨趣ノ不可ナル說ハ既ニ陳述シタレハ又爰ニ贅セ

ス但其文字ノ不都合ナル者ハ之ヲ陳ザルヲ得ズ本案ノ最後ニ附加セントスル「前條云々」ノ文字甚ダ穩ナラズ前條ト云フハ本案ノ

第八條ヲ指スナリ其條ハ議事ノ細則ヲ議定スル者ナリ文字上ヨリ



見來レバ此意趣ノ外ニ出デズ然レモ事實上ヨリ見來レバ七番ノ意ハ此ノ如クナラズシテ本案ノ全躰ヲ指スモノ、如シ何等ノ主意ナルヤ辨駁スルニモ殆ト其方向ヲ失フト

○七番 佐野 常民 二十二番ノ説大ニ其理アリ單ニ前條ト云フハ第八條ヲ指ストナルベシ本官ノ意ハ本案ノ全体ヲ指スニアルヲ以テ前條ノ字ヲ改メテ前數條ト爲サント欲ス然リト雖既ニ一ノ修正説ヲ議場ニ出シ又自ラ之ヲ改ムルハ規則ノ許サ、ル所ナレハ衆議官ノ特ニ之ヲ許サンコトヲ冀望スト

○議長 七番ハ既ニ修正説ヲ出セリ賛成者アルヲ以テ議場ノ問題トセシカ廿二番ヨリ駁議ヲ與ヘリ付テ七番ハ更ニ文字ヲ修正シテ議場ノ問題トナサンコトヲ冀望セリ各議官ハ如何思考セラル、ヤ可ト

認メラル、議官ハ起立セラレヨト述フ

○議長 起立者ナキヲ以テ其言ヲ廢棄ス

○議長 七番ノ前ノ修正説ヲ可トスル者ヲ起立セシム  
起立者四人 少數

○十五番 福羽 美靜 過刻陳述セシ如ク第一條ヲ改メ「府縣會ハ該府縣ノ事ヲ議スル所ニシテ專ラ地方稅徵收方法ヲ議シ其總額ヲ豫定シ前年度ノ出納決算ヲ審査スル」ヲ得「泛ク大政ニ及ブ」ヲ得ズ「ニ作ラント欲スト

○八番 山口 尙芳 賛成

○議長 問題トス

○廿二番 中島 信行 十五番ノ修正ハ漫然トシテ意義ナシ「專ラ」ノ字ヲ以



其制限ト爲シテ主務ヲ掲グル主意ナレト元來府縣ノ事ヲ議スル所ニシテ「ノ句定マリタル事ニアラザルヲ以テ實際ニ於テ紛議ヲ生ゼン又「大政ニ及フヲ得ズ」ノ上ニ「然レ」ノ句ヲ脱スレバ其文字愈連續セス管ニ木ニ竹ヲ接キシノミナラズト

○十五番 福羽美靜 「府縣ノ事ヲ議スル所ニシテ」ノ句ナケレハ泛ク大政ニ及フヲ得ズ」ト應照セズ故ニ之ヲ加ヘサル可ラス「然レ」ノ句ハ却テ文意允當ナラサルヲ覺フ故ニ之ヲ刪レリト

○議長 十五番ノ修正說ヲ可トスル者ヲ起立セシム  
起立者二人 少數

○十六番 大給恒 各議官ノ修正說ハ皆同意者少數ナルヲ以テ廢棄セラレタリ然レ「本案第一條ノ允當ナラサルハ紛々修正說ノ出ルヲ以

テ證明スベシ故ニ本官ハ諸議官ノ說ヲ參酌シ一ノ修正案ヲ出サン其說第一條ハ十三番ノ修正ノ如クニ爲シ惟專ラ「ノ二字ヲ刪リ原案第二十五條ヲ本案第七條ノ次ニ入レテ第八條トセン字句ヲ刪リ位置ヲ換フルモ亦修正ナリ敢テ十三番修正說ノ既ニ廢棄セラレタル者ヲ再出スルニアラズ

○議長 十六番ノ修正說ハ其意義精神全ク既ニ廢棄セラレタル十三番ノ說ト同一ナリ此ノ如ク既ニ廢棄セラレタル者ヲ小變シテ之ヲ出ス時ハ同意義ノ修正千百ヲ累ヌルニ至ラン然レ「字句稍異ナルヲ以テ之ヲ一修正ト看做シテ議場ニ提出セシム可キ乎抑議事ヲ整頓スルカ爲メニハ右等ノ者ハ之ヲ廢棄ス可キ乎右等ノ者ト雖一修正ト看做スヘシト思考スル議官ハ起立スヘシト述フ



起立者四人 少數

○五番 細川 潤次郎 本案第一條允當ナラス然レモ修正説モ亦行ハル、ナクシテ徒ニ議場ノ紛亂ヲ致セリ故ニ臨機ノ處分ヲ用ヰテ更ニ本案ヲ前ノ修正委員ニ附托シ以テ再度ノ修正ヲ爲サシムヘシ抑再度ノ修正ハ本院ニ於テ未タ見サル所ノ例ナリト雖之ヲ海外諸國ノ議院ニ例スルニ往々此ノ事アリテ嘗再度ニ止マラザルナリ紛冗ヲ防テ整頓ヲ希望スルノ精神ヨリ之ヲ爲スト云フ故ニ今此第一條ヲ修正セシムル爲メニ本案ヲ前ノ修正委員ニ附托センヲ望ム

○十六番 大給 恒 賛成

○議長 問題トス

○廿二番 中島 信行 本官ハ本案修正委員ノ一人ナリ而シテ其修正完カラ

スシテ紛論ヲ起スニ至レリト雖本官ハ尙ホ前説ヲ改ム可キノ理由ヲ見サルヲ以テ若シ五番ノ説行ハレテ再ヒ本案ヲ附托セラルトモ別ニ好案ヲ出ス能ハサルモ知ル可ラズ故ニ五番ノ説行ハレテ再ヒ修正ヲ爲スニ決セバ別ニ委員ヲ撰ンデ之ヲ附托セラレンコヲ希望スト

○議長 五番ノ建議ヲ可トスル議官ヲ起立セシム

起立者八人 多數

○議長 六番 柳原 前光 七番 佐野 常民 廿二番 中島 信行 ノ三員ニ修正ヲ命シ明日第二

號議案ノ第二會ヲ開ク旨ヲ演説シ散會セシム

午後第三時三十五分閉場



元老院會議筆記明治十一年六月四日

○第一百號議案地方官會議ニ於テ議定セシ第二號第二讀會

議長有栖川  
熾仁

出席議員

- |    |       |
|----|-------|
| 三番 | 山尾 庸三 |
| 四番 | 大久保一翁 |
| 六番 | 柳原 前光 |
| 七番 | 佐野 常民 |
| 八番 | 山口 尙芳 |
| 九番 | 河野 敏鍊 |
| 十番 | 東久世通禧 |



内閣委員番外 一番 太政官大書記官松田 道之

- 十一番 黒田 清綱
- 十二番 秋月 種樹
- 十三番 前島 密
- 十四番 水本 成美
- 十五番 福羽 美靜
- 十八番 楠田 英世
- 十九番 陸奥 宗光
- 廿二番 中島 信行
- 廿三番 穴戸 璣
- 廿七番 伊集院兼寛

午前第十時三十分開場

○議長 第一百一號議案中即チ地方官會議ニ於テ議定セシ所ノ第二號議案昨日ノ引續第二讀會ヲ開ク旨ヲ演述ス

○書記官戸田秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第十五條 議員ヲ撰舉セントスルハ府知事縣令ヨリ某月間ニ撰舉會ヲ開クベキ旨ヲ布令シ郡區長ハ豫メ撰舉ノ投票ヲ爲スベキ日ヲ定メ少クモ十五日前ニ之ヲ郡區内ニ公告スベシ

○議長 本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム  
全員悉起立

○議長 全會一致之ヲ可トスルノ旨ヲ告ク

○書記官戸田秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス



第十六條 選舉ノ投票ハ豫定ノ日ニ郡區廳ニ於テ之ヲ爲シ郡區長  
之ヲ調提シ撰舉會中ノ取締ヲ爲スヘシ但便宜ニ因リ郡區廳外ニ  
於テ撰舉會ヲ開クコトヲ得

○議長 本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全會一致之ヲ可トスル旨ヲ告ク

○書記官 戸田 秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第十七條 投票ハ豫メ郡區長ヨリ附與シタル用紙ヲ以テ撰舉場外  
ニ於テ撰舉人自己及ヒ被撰人ノ住所姓名年齢ヲ記シ豫定ノ日之  
ヲ郡區長ニ出スベシ投票ハ多數ノ者ヲ以テ當撰人トシ同數ノ者  
ハ年長ヲ取り同年ノ者ハ鬮ヲ以テ之ヲ定ム

○議長 本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全會一致之ヲ可トスル旨ヲ告ク

○書記官 戸田 秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第十八條 投票終ルノ後郡區長ハ撰舉人名簿ニ就テ投票ノ當否ヲ  
查シ又被撰人名簿ニ就テ當撰人ノ當否ヲ查ス若シ法ニ於テ不適  
當ナル者アルキハ之ヲ除キ當撰人ハ順次投票ノ多數ヲ得タル者  
ヲ取ル

○廿二番 中島 信行 本條ヲ修正セント欲ス當撰人ノ辭表ヲ呈シタル場合  
各條ニ見ヘス仍テ本條中ニ之レヲ補ハント欲スル左ノ如シ  
法ニ於テ不適當ナル者アル以下ニ(カ或ハ當撰人自カラ其撰ヲ



辭スル時ハ順次投票ノ多數ヲ得タル者ヲ取ル

○七番 佐野常民

廿二番ノ修正ヲ可トス當撰人ニ於テ之ニ應スルヲ欲セ

サルモノハ之ヲ強ユルコトヲ得ス何トナレハ其郡區ノ總代ヲ依頼スルモノナレハナリ其場合ニ於テ其欠ヲ補フノ方法ハ歐洲ニテハ更ニ投票スト雖モ其順次ノ當撰人ヲ取ルベキナリ

○議長 廿二番ノ動議ニ同意ノ者ヲ起立セシム

起立者十四人

○議長 廿二番ノ動議ハ同意者多數ナルニヨリ其修正ニ決スル旨ヲ告ク

○書記官 戸田秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第十九條 議員ノ任期ハ四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改撰ス第一

○ 回二年期ノ改撰ヲ爲スハ抽籤法ヲ以テ其退任ノ人ヲ定メ滿四年ニシテ全數ヲ改撰ス

○七番 佐野常民

本條ノ前ニ一條ヲ増加セント欲ス未タ十九條ヲ決セサ

ル以前ニ本官ノ説ヲ問題ト爲サンコトヲ希望ス其意當撰人ハ郡區廳之ヲ査定シ而シテ本人ニ達ス本人辭セサレハ其數始メテ定マル若シ辭スレハ其數ヲ欠ク本人ハ郡區ヨリ依頼ヲ受ケタル證書ナカルヘカラス何トナレハ當撰人ハ相互ヒニ其證書ヲ查スルナリ歐洲ニテハ此方法甚タ詳密ナリ蓋シ不當ノ者ヲ撰ミタル時ハ必ス煩雜ノ事ヲ生シ遂ニ訴訟トナルコトアリ仍テ本人ノ其撰ヲ受ケタルノ証ト其委任セシ証トヲ互ヒニ取り置クベキモノトス歐洲ハ其方法載セテ憲法ニアリ仍テ簡單ナル一條ヲ加フルコト左ノ如シ



第十九條 當撰人ノ當否ヲ查定スルノ後郡區長ハ其當撰人ヲ郡區

廳ニ呼出シ當撰狀ヲ渡シ當撰人ハ請書ヲ出スベシ

其當撰狀ハ宣示ノ如キ命令ノ意ヲ帶フヘカラス其相當ノ書法ヲ

定メ且郡廳ノ印ヲ捺スヘシ又本人之ヲ受ケタルノ証トシテ請書

ヲ出スヘキナリ

○十九番 陸奥 宗光 賛成

○十八番 補田 英世 七番ノ修正ヲ賛成シ且一句ヲ加ヘンコトヲ欲ス七番ノ

說ノ如ク當撰既ニ定マレハ之ヲ郡區内ニ公告スヘシトス

○十九番 陸奥 宗光 十八番ノ說ヲ無用ト呼フ

○議長 無用ノ理由ヲ陳セシム

○十九番 陸奥 宗光 七番ノ修正說ハ未タ議場ノ問題トナラス十八番ハ賛

成者ニシテ更ニ文ヲ添ヘント欲ス然ラハ賛成者ニアラスシテ一ノ  
動議者ナリ無用ト呼フ所以ナリ

○十八番 補田 英世 本官ノ說ハ七番修正ノ精神ナリ決シテ別說ニアラス

若シ文ヲ添ユルヲ不可トセハ七番ノ修正說決定ノ後ニ於テ提出ス

○ヘキナリ

○八番 山口 尙芳 修正文ノ朗讀ヲ乞フ

○議長 書記官ヲシテ朗讀セシムル旨ヲ告ク

○書記官 戸田 秋成 七番ノ修正文ヲ朗讀ス

○七番 佐野 常民 十八番ノ賛成アリ而シテ又添ユル文アリ其說未タ消滅

セス其大意當撰人自カラ廣告スヘシトノコナリ此事ハ歐洲ニモア

リ日本ニテモ爲スヘキコナリ然レモ知事令ニ報告シ新聞ニモ記入



スルニ於テハ別ニ此事ヲ要セス果シテ其事ヲ爲サント欲セハ十八番ノ論ヲ提出シテ別條ヲ設クベシトス

○十八番 補田英世 幸ニ七番ノ説ハ同意ナリ本官ノ意ハ更ニ別條ヲ置クニ及ハス元來當撰人ヨリ廣告スト云フニアラス府縣ヨリ其郡區内ニ當撰人ノ姓名ヲ廣告スルコナリ是レ重大ノコナリ故ニ七番ノ修正ニ加ヘテ(郡區長之ヲ郡區内ニ公告スヘシ)ト爲ント欲ス

○廿二番 中島信行 本官ハ七番ノ修正ニ同意ス然ルニ十八番ノ旨意ハ何クニアルヤ其廣告ハ可ナルカ如シト雖其説ハ七番ノ修正ニ妨碍ヲ加フルモノトス則チ七番ノ修正説ヲ更ニ修正スルナリ十八番ハ賛成ヲ得ンコトヲ欲スルモ七番ノ説既ニ問題トナリタル上ハ更ニ一ノ問題ト爲スコハ規則ニ於テ能ハサルベキナリ

○十八番 補田英世 廿二番ノ辨駁アリ本官ノ修正ハ少シク變例ナリ故ニ豫シメ其理由ヲ陳述シ而シテ發議セシナリ故ニ駁議ヲ受クヘキト思ハス然レモ敢テ議場ノ問題ヲ煩ハサス元ヨリ七番ノ精神ヲ擴充スルニ過キズ

○議長 十八番ハ七番ト全ク同意ナリヤト問フ

○十八番 補田英世 精神ハ同シト答フ

○議長 七番ノ動議ニ同意ノ者ヲ起立セシム  
起立者九人

○議長 多數ニヨリ七番ノ修正ヲ可ト決スル旨ヲ告ク

○七番 佐野常民 更ニ修正案ヲ提出ス原案ニヨレハ被撰人ハ其郡區内ヨリ取ル故ニ一人ニテ各所ヨリ撰ハル、ノ患ナシ本案ハ府縣内ヨリ



撰ムコトナリタリ然ラハ一人ニシテ數所ヨリ撰ハルコトアルヘシ  
 蓋シ其人ハ名望アリテ信用アル人ナレハナリ此時ニ當リ一人ヲ分  
 割シテ二人ト爲スコヲ得ス適宜ノ處分ナカルヘカラザルナリ蓋シ  
 本人ノ自由ニ任セテ何レノ郡區ノ被撰人トナルトモ隨意ナリト爲  
 スヲ善シトス歐洲ノ方法亦此ノ如シ仍テ一條ヲ増加スル左ノ如シ  
 第二十條 一人ニシテ數郡區ノ撰ニ當ルトキハ其何レノ郡區ニ屬  
 スヘキハ當人ノ好ミニ任スヘシ

○十九番 陸奥 宗光 賛成

○八番 山口 尙勞 七番修正ノ意欠クヘカラサルコトス然レモ同意スル能  
 ハス七番ノ説ハ蓋シ第十三條ヨリ出ルナルヘシ不幸ニシテ昨日欠  
 席スルヲ以テ第十三條ヲ修正シテ府縣内ヲ郡區内ト爲スコヲ乞ハ

サルヲ惜ム之ヲ府縣内ト爲ストキハ其地方ノ利害情實ヲ知ラサル  
 モノヲ撰擧スルコトニテ民撰議院ノ精神ニ違ヘリ第十三條既ニ決議  
 セシ上ハ七番ノ説亦欠クヘカラサルナリ然レモ地方ノ利害情實ヲ  
 知ラサルモノヲ撰ムハ國會ノ精神ニシテ府縣議會ノ精神ヲ失ス第  
 三讀會ニハ其修正ヲ提出セント欲ス故ヲ以テ之ヲ賛成セス

○七番 佐野 常民 八番ノ説ハ第十三條ニ同意セサルヲ以テ本官ノ修正ニ

同意セスト云フ元ヨリ今日ニ論ス可キニアラス然レモ一言セサル  
 ヲ得ス其郡區内ノ人ニアラサレハ其利害情實ヲ盡サス則チ國會ノ  
 精神ヲ用ヒタリト云フ若シ之ヲ國會ニ例セハ西ヨリ東ヨリ南ヨリ  
 北ヨリ來ルモノハ全國ノコヲ議スルモノナリ然ルヲ僅々一府縣ノ  
 事ヲ議スルニ其一郡區内ヨリ撰マサルヲ得スト論スルハ謂レナキ



「ナリ歐州ノ州會ハ州ノ代議士ナレハ決シテ其邑ノ事ヲ議スルノ  
ミナラス既ニ府縣内ト決定セシ上ハ數郡區ノ撰ニ當ルハ必然ニシ  
テ其何レニ屬スヘキハ本人ノ自由ニ任カスヘキナリ

○十九番陸奥 宗光 本官ハ七番ノ修正ニ同意ニシテ第十三條ノ意モ亦盡  
シタリ八番ハ第三讀會ニ於テ之ヲ論スト云フモ今日ニ於テハ其論  
殆ント蛇足ナリ

○八番山口 尙芳 歐洲國會モ該州ヨリ撰舉スルナリ決シテ他州ヨリ撰舉  
スルモノニアラス全國ヲ通シテ撰ムハ大統領ノミニシテ議員ヲ撰  
ムモノニアラス何ソヤ人情止ムヲ得サルモノニシテ近キ所ヨリ撰  
ムノ理ヲ生ス其郡區内ニ滿一年以上住居スルモノヲ撰ムノ精神ヨ  
リ之ヲ論スレハ府縣内ヲ通シテ撰ムヘキニアラス日本他日國會ヲ

起サハ必ス其府縣内ニ住スル者ヲ撰舉スヘクシテ決シテ他ノ府縣  
内ニ及ハサルヘシ故ニ本案ノ如キハ即チ郡區内ヨリ撰ムト爲ス  
可キナリ此ノ如キ決定ハ満足セス第三讀會ニ於テ第十三條ノ修正  
ヲ提出スベシ然ラサレハ本案ノ欠缺ヲ生スヘシ仍テ本日ハ先ツ七  
番ニ同意シテ前説ノ不同意ヲ取消ス

○議長 七番ノ動議ニ同意ノ者ヲ起立セシム  
起立者十六人

○議長 七番ノ修正ニ決スル旨ヲ告ク

○書記官戸田 秋成 左ノ一條ヲ更ニ朗讀ス

第二十一條

但本條ハ本案ノ第十九條ニシテ第十九條第二十條ヲ插入スルヲ



以テ第二十一條トナル以下逐條其次序ヲ降ス

○議長 本條ニ同意ノ者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全會一致可トスル旨ヲ告ク

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

○第二十二條 前條ノ改撰ヲ爲スニ於テ前任ノ者ヲ再撰スルヲ得

○七番 佐野常民 一條ヲ加ヘ且一條ヲ降スヲ問題ト爲サンヲ希望ス

本案ハ議員ヲ二年毎ニ改撰スルモノトス原案ハ三年ナレハ其三年毎ニ改撰スルハ妨ケナシト雖既ニ二年ト爲セハ議長副議長モ亦其規則ニヨリ改撰セザルベカラス蓋シ四年ヲ一期トシ二ケ年目ニ議長副議長モ之ヲ撰マザルヘカラス其人四ケ年ヲ繼續スヘキモノニ

シテ議長副議長ト爲ルトキハ妨ケスト雖是レ不公平ナリ何トナレハ二ケ年目改撰中ニ前ノ議長副議長ニ卓越シテ一層人望アルモノアルベシト雖是遂ニ議長副議長トナルヲ得サルヘシ仍テ一條ヲ増加スル左ノ如シ

第二十二條 議長副議長ノ任期ハ二年トシ議員ノ改撰毎ニ之ヲ公撰スヘシ

更ニ第二十三條ニ修正ヲ加ヘ(前二條ノ場合ニ於テハ)ト爲スヘシ然ラハ議員ハ改撰ノ時ニ再撰スルヲ得又議長ハ二ケ年ノ人ナレハ又再撰セラル、ヲ得ルナリ

○六番 柳原前光 七番ノ動議ハ第二十二條ヲ第二十三條トシ第二十二條ヲ創設シ議長副議長ノ任期ヲ二年トシ議員改撰ノ期ニ至リ之ヲ改



撰スルコトヲ明カニ掲クル説ニシテ本官ノ尤モ可ナリトスル所ナリ

○仍テ賛成ス

○十九番 陸奥 宗光 本官モ亦賛成ス新設ノ條モ第二十二條ノ修正ヲ連帶

シテ決スルコトヲ乞フ

○議長 七番ノ修正ヲ問題トシ二條ヲ連帶シテ決ヲ取ル旨ヲ告ク

○廿二番 中島 信行 七番ノ修正案ナル第二十二條ヲ第二十三條ト爲シ云

云理アルコトナリ本官モ同意ナリ議長ヲ撰ムノ公平ナルハ説ヲ費ヤ

サス

○議長 七番ニ同意ノ者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全會一致可トスル旨ヲ告ク

○書記官 戸田 秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

○第廿四條 議員中第四條ニ掲クル諸款ノ場合ニ遭遇スル者アルカ

其府縣外ニ轉住スルカ死去若クハ疾病アル等止ムヲ得サル事故

○ナクシテ開會ノ招集ニ應ゼサル者ハ退職者トシ更ニ其欠ニ代ル

者ヲ撰擧ス

○十九番 陸奥 宗光 議員中(第四條)ハ印刷ノ誤マリカ原案ノ第四條ニシ

テ本案ノ第十二條修正ノ第十三條ノ誤マリアルヘシ

○六番 柳原 前光 繕寫ノ誤ノミ

○外一 松田 道之 其他誤アリ若シ誤ナラサレハ不分明ノ修正ナリ原案

ニハ轉住スルカ(死去スルカ)トアリ修正ニハ(死去若クハ疾病アル

等)トアリテ止ムヲ得サル事故ナクシテ開會ノ招集ニ應セザル者



ハ)ニ通スル詞ナリ元來死去ハ止ムヲ得サルヲナリ然ルヲ止ムヲ得ヘシト爲サハ死者モ亦議員トナルヲ得ルトスルニ似タリ必ス修正アルベシトス

○十九番 陸奥 宗光 本官ハ不分明トセス死去ハ止ムヲ得ル得サルノ論ニ及ハス若シ別ニ分明ナル文ト爲サハ更ニ可ナリ

○外一番 松田 道之 不分明ナリトス死去セシモノヲ止ムヲ得ルトナシテ其欠ニ代ル者ヲ撰擧セサルノ理ナシ

○廿二番 中島 信行 下附原案ノ如ク(死去シタルカ)ト修正ヲ加ヘント欲ス

○六番 柳原 前光 二十二番先ツ我カ心ヲ得タリ仍テ賛成ス

○十五番 福羽 美静 賛成

○七番 佐野 常民 本官亦修正委員ノ中ニアリト雖モ廿二番ノ修正ヲ賛成ス

○議長 二十二番ニ同意ノ者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全會一致廿二番ノ修正ヲ可トスル旨ヲ告ク

○議長 稍々午時ニ近キヲ以テ午後引續開場スヘキ旨ヲ告ケ散會ヲ命ス

午前第十一時五十五分開場

午後十二時三十五分開場

○議長 午前引續ノ會ヲ開ク旨ヲ演述シ且十三番議官 前島 密 病ニヨリ欠席ノ旨ヲ告ク



○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第三章 議則

第廿五條 議員半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス

○議長 本條ニ同意ノ者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全會一致可トスル旨ヲ告ク

○書記官 戸田秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第廿六條 議事ハ多數ニ依テ決ス可否同數ナルキハ議長ノ可否ス

ル所ニ依ル

○十五番 福羽美静 (多數)ヲ修正シテ過半數ト爲スヘシ

○十九番 陸奥宗光 賛成

○議長 十五番ノ動議ニ同意ノ者ヲ起立セシム

起立者七人

○議長 同意者少數ナル旨ヲ告ク

○書記官 戸田秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第廿七條 府知事縣令若クハ其代理人ハ會議ニ於テ議案ノ旨趣ヲ

辨明スルヲ得但決議ノ數ニ入ルヲ得ス

○議長 本條ニ同意ノ者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全會一致可トスル旨ヲ告ク

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第廿八條 會議ハ傍聽ヲ許ス但シ府知事縣令ノ要メニ依リ又ハ議



長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルヲ得

○議長 本條ニ同意ノ者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全會一致可トスル旨ヲ告ク

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第廿九條 議員ハ會議ニ方リ充分討論ノ權ヲ有ス然レモ人身上ニ

付テ褒貶毀譽ニ涉ルコトヲ得ス

○議長 本條ニ同意ノ者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全會一致可トスル旨ヲ告ク

○書記官 戸田秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第三十條 議場ヲ整理スルハ議長ノ職掌トス若シ規則ニ背キ議長

之ヲ制止シテ其命ニ順ハサル者アルモハ議長ハ違法者トシテ議

場外ニ退去セシムルヲ得其強暴ニ涉ル者ハ警察官吏ノ處分ヲ求

ムルヲ得

○議長 本條ニ同意ノ者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全會一致可トスル旨ヲ告ク

○書記官 戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第四章 開閉

第三十一條 府縣會ハ毎年一度三月ニ於テ之ヲ開ク其開閉ハ府知

事縣令ヨリ之ヲ命シ會期ハ三十日以内トス但府知事縣令ハ會議



ノ衆議ヲ取リテ其日限ヲ伸ルヲ得

○廿二番 中島 信行 本條ニ修正ヲ加シテ欲ス(其日限ヲ伸ルヲ得)ノ

下ニ(ルト雖<sub>レ</sub>其事由ヲ直チニ内務卿ニ報告スヘシ)ト原案ニハ(閉會ノ延期ヲ要スルカ又ハ臨時會議ヲ開クヲ要スル<sub>レ</sub>ハ府知事縣令ノ具狀ニヨリ内務卿之ヲ許否ス)トアリ既ニ開場セシ上ニ其許否ヲ受クルハ實際障碍アルヘク且内務卿其別意アルヘカラスト思考セシユヘ本案ノ如ク修正ヲ加ヘタレ<sub>レ</sub>猶ホ再思スルニ三十日間ノ定期外ニ出ツルコナレハ内務卿モ之ヲ知り又報告ノ手順ヲ爲スハ當然ナリ仍テ其束縛ヲ解キ且報知ノ手順ヲ爲サシメント欲ス

○九番 河野 敏鎌 賛成

○七當 佐野 常民 賛成ス豫算表ヲ具狀スルモ同様ナリトス

○議長 廿二番ノ動議ニ同意ノ者ヲ起立セシム

起立者十三人

○議長 廿二番ニ同意者多數ニヨリ可ト決スル旨ヲ告ク

○書記官 戸田 秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第三十二條 通常會期ノ外會議ニ附スヘキ事務アル時府知事縣令

ハ臨時會ヲ開クヲ得

○廿二番 中島 信行 本條モ前條ト同シク僅カノ修正ヲ加ヘント欲ス即チ

左ノ但書ヲ加フ

但該會ヲ要スル事由ヲ直チニ内務卿ニ報告スヘシ

臨時會ヲ開クハ一種肝要ナルコトノ爲メニシテ通常會ノ毎年三月ト定メタル如キモノニアラス若シ内務卿之ヲ知ラサルトキハ障碍ナ



キヲ保セス又地方官ハ之ヲ報告スヘキノ道理アルナリ

○九番 河野 敏鎌 賛成ス前條ニ同理由ナリトス

○七番 佐野 常民 適當ナルニヨリ賛成ス

○議長 廿二番ノ動議ニ同意ノ者ヲ起立セシム

起立者十五人

○議長 多數ニヨリ廿二番ノ修正ニ決スル旨ヲ告ク

○書記官 戸田 秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第三十三條 會議ノ論說國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯ス

コアリト認ルルハ府知事縣令ハ會議ヲ中止セシメ内務卿ニ具狀

シテ其指揮ヲ請フベシ

○議長 本條ニ同意ノ者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全會一致可トスル旨ヲ告ク

○書記官 戸田 秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第三十四條 會議中國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スヲア

リト認ムル時ハ内務卿ハ何レノ時ヲ問ハス閉會ヲ命シ又ハ議員

ノ解散ヲ命スルヲ得

○議長 本條ニ同意ノ者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全會一致之ヲ可トスル旨ヲ告ク

○書記官 戸田 秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第三十五條 内務卿ヨリ解散ヲ命シタルハ更ニ議員ヲ改撰スベ



○議長 本條ニ同意ノ者ヲ起立セシム

○議長 全員悉起立

○議長 全會一致之ヲ可トスル旨ヲ告ケ本日ノ會議ハ此ニ終ル第三  
讀會ノ期日ハ追テ報スル旨ヲ告ケ散會ヲ命ス

午後十二時五十五分閉場



元老院會議筆記明治十一年六月十二日

○第百壹號議案 地方官會議ニ於テ議定セシ 第二號第三讀會

議長 有栖川 熾仁

出席議官

- |    |       |
|----|-------|
| 一番 | 津田 真道 |
| 三番 | 山尾 庸三 |
| 四番 | 大久保一翁 |
| 五番 | 細川潤次郎 |
| 六番 | 柳原 前光 |
| 七番 | 佐野 常民 |
| 八番 | 山口 尚芳 |



- 九番 河野 敏録
- 十番 東久世通禧
- 十一番 黒田 清綱
- 十二番 秋月 種樹
- 十四番 水本 成美
- 十五番 福羽 美靜
- 十六番 大給 恒
- 十七番 山田 顯義
- 十八番 楠田 英世
- 二十一番 田中不二磨
- 二十二番 中島 信行

- 二十三番 宍戸 璣
  - 二十四番 津田 出
  - 二十五番 岩下 方平
  - 二十七番 伊集院兼寛
- 内閣委員 番外 太政官大書記官松田 道之

午前第十時五分開場

○議長 第一百號議案中ノ第二號議案第三讀會ヲ開クニ依リ例ヲ照シ發議スヘキ旨ヲ演述ス

○書記官 戸田 秋成 左ノ議案ヲ朗讀ス

今般府縣會相設規則被定候條此旨布告候事

但即今會議相開キ難キ地方ハ其事由ヲ内務卿ヘ具狀ス可シ



○五番 細川潤 次郎 過日第二讀會ノトキ本官ハ内務卿ニ具狀ス可シトノ

修正説ヲ提出セリ幸ニシテ可認セラレタリ然ルニ今此布告案ノ朗讀ヲ聞クニ内務卿ヘトアリ固ヨリヘトニトニ於テ利害得失ニモ大小輕重ニモ關係スルニ非サレハ之ヲ修正セサルモ敢テ不可ナシ然レトモ通篇總テ内務卿ニトアレハ本案モ同一ナルヲ可トス是レ必ス印刷ノ際其排字ヲ誤リシ者ナラン各議官モ之ヲ排字ノ誤リト認メラル、キハヘヲニニ改作センコヲ望ムト

○六番 柳原 前光 五番ノ説允當ナリ印刷ノ誤ト看做シテ可ナリ

○議長 五番六番ノ説ノ如ク議長ニ於テモ印刷ノ誤リト認メタレハヘヲニト改メ本案ニ於テ異議ナキ者ハ起立ス可シト命ス

起立者二十一人

○議長 多數ヲ以テ本案ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田 秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

府縣會規則

第一章 總則

第一條 府縣會ハ地方稅ヲ以テ支辨ス可キ經費ノ豫算及ヒ其徵收方法ヲ議定ス

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム  
全員悉起立

○議長 全會一致本條ヲ可トシタレハ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田 秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第二條 府縣會ハ通常會ト臨時會トノ二類ニ別ツ其定期ニ於テ開



ク者ヲ通常會トナシ臨時ニ開ク者ヲ臨時會トナス

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全會一致本條ヲ可トシタルヲ以テ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第三條 通常會臨時會ヲ論セス會議ノ議案ハ總テ府知事縣令ヨリ之ヲ發ス

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全會一致本條ヲ可トシタルハ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第四條 臨時會ハ其特ニ會議ヲ要スル事件ニ限り其他ノ事件ヲ議

スルヲ得ス

○議長 發議ナキヲ以テ本條ヲ可トスル者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全會一致本條ヲ可トシタルハ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第五條 凡ソ地方稅ヲ以テ施行スヘキ事件ハ府縣ノ會議ニ附シ其議決ハ府知事縣令認可ノ上之ヲ施行ス可キ者トス若シ府知事縣令其議決ヲ認可スヘカラスト思慮スルハ其事由ヲ内務卿ニ具狀シテ指揮ヲ請フベシ

○七番 佐野常民 本條ニ修正ノ說ヲ提出セントス其理由ハ地方稅ヲ以テ



施行スヘキ事件ハ其費目ト其事業ヲ會議ニ附シ其議決ヲ取り而ノ  
 後チ府知事縣令之ヲ認可シテ施行スルナリ若シ其議決府知事縣令  
 ト意見ヲ異ニセシキハ其事由ヲ内務卿ニ具狀シテ其指揮ヲ受クル  
 ナリ本官之ヲ審思熟慮スルニ其認可スルノ權ハ府知事縣令ノミニ  
 專任スヘカラサル者トス何ントナレハ國稅ト言ヒ地方稅ト言フモ  
 其大小ノ區別アルノミ均シク之レヲ人民ニ徵收シ其公益ノ爲メニ  
 支辨スルモノナレハ之ヲ鄭重ニス可キハ論ヲ待サルナリ歐洲ニ於  
 テモ州費ノ豫算ハ州會ノ議決ニ取り其之ヲ認可確定スルハ君主ノ  
 權トスルノ例ニテ尤モ鄭重ヲ極メタリ今遠カニ歐洲ノ例ニ模仿シ  
 難シト雖モ府知事縣令ニノミ認可ノ權ヲ委セハ大政府總括スルノ  
 大綱緩弛ニ屬スルノ嫌アリ且ツ府縣ノ經費モ其幾部分ハ之ヲ國稅

ヨリ補助スルヲナレハ其地方官ヲ監督スルノ職掌タル内務卿ノ認  
 可ヲ受クルヲ當然ナリトス故ニ特ニ府知事縣令ト其意見ヲ異ニセ  
 シトノミナラス一切内務卿ノ認可ヲ受クルヲ可トス仍テ其議決ハ  
 府知事縣令之ヲ内務卿ニ具狀シ其認可ヲ得テ施行スヘキ者トスト  
 修正セハ續密鄭重ナルノミナラス内務卿モ地方官ヲ監督スルノ主  
 意ニ適當ス可シ或ハ地方分權論者ノ精神ニハ齟齬スルヲアルヘシ  
 ト雖モ施政上ニ於テハ最も緊要的トス

○五番 細川潤次郎 賛成

○二十一番 田中不磨 賛成

○十八番 補田英世 賛成

○十七番 山田顯義 賛成



○三番 山尾 賛成

○議長 七番ノ修正説ニ五名ノ賛成者ヲ得タレハ之ヲ議場ノ問題トナス

○二十二番 中島 信行 本官ハ本案ヲ可ナリト認ム本條ヲ修正セントスルノ説ヲ聞クニ海外ノ例ヲ引援シテ本邦モ亦タ之レニ依據ス可シト言フニ過キササルナリ本官ノ其説ニ左袒セサル所以ハ政府ノ主義既ニ地方分權ニ在リト推考スレハナリ且現今諸省ノ狀況ヲ聞見スルニ文書堆積啻ニ汗牛充棟ノミナラス實ニ其煩雜ヲ極ム是中央集權ノ弊ナリ然レモ内務卿ノ認可ヲ得ルヲ以テ最大緊要缺ク可ラサルノ事項トスレハ設使ヒ其煩雜ナルモ之レヲ顧ミルニ足ラスト雖モ既ニ分權ノ主義ニ背キ又一層ノ煩雜ヲ招カン又タ海外ノ例ヲ徵ス

レハ議決ヲ中央政府ニテ認可スルモノアルヘシト雖モ各國皆ナリト言フニハ非サルベシ且ツ國會ノ設ケモアリ其政体大ニ本邦ト異ナル者アリ本案既ニ地方税ノ區分制限ヲ立テ地租十分一以内ト言ヒ營業税ト言ヒ戸數割ト言フヲ以テ見レハ政府ノ地方ニ委任スルノ意以テ見ル可シ然ルニ修正ノ如クナレハ地方税ヲ以テ施行スヘキ事件ヲ會議ニ附スルヲ以テ府知事縣令ノ職掌トナシ而テ自ラ其議決ヲ可否スルヲ能ハズ之ヲ内務卿ニ具狀シテ其裁決ヲ得ルトスルキハ府知事縣令ノ責任タル者極メテ輕微ニシテ徒ニ事務ヲ遞傳スルニ過キサザルナリ本案ノ如キハ現今ノ時勢ニ適當ナルモノトス

○七番 佐野 常民 前回ハ賛成者ヲ得ン爲メノ陳述ニシテ今回ハ即チ成規



一回ノ發議ヲ許サレタルモノト思考スニ二十二番ノ駁議ヲ受クルト雖<sup>レ</sup>本官之ニ服セス何ントナレハ修正ノ如クナルモ府知事縣令ノ權利決シテ地ニ墜サルナリ自ラ議案ヲ發シ其議決ヲ取り内務卿ノ認可ヲ得テ之ヲ實際ニ施爲スルヲ以テ責任トナスハ地方官ノ職掌ニ於テ適當ナリトス認可スルヲ以テ責任トナスハ不可ナリ自ラ議案ヲ發シ自ラ之ヲ可否スルハ施政上ニ於テ障礙アルハ論ヲ待タスシテ明ラカナリ分權ノ區分立タサルヨリ行政上ニ煩雜ヲ來タスノ說ハ二十二番ノ所見ノ如シ故ニ一周年間僅ニ一回ノ認可ヲ經テ之ヲ負擔シ實際施爲セハ特ニ中央政府ノ煩雜ヲ減却スルノミナラズ地方ノ事務モ大ニ舉ルニ至ラン若シ之ニ反スルトキハ其責任モ輕ク事業モ亦タ舉ラザルヘシ現今ノ區畫ノ制ノ如キ當初法律ヲ以テ

之ヲ確定セス府知事縣令ノ自ラ爲スニ任セタレハ種々ノ障礙ヲ生シ遂ニ今日改正ヲ要スルニ至リシナリ又タ從前ノ民費府縣稅ノ如キモ各府縣其自ラ爲スニ任セタルヲ以テ昨年第二號ノ布告ニ五分一ヨリ超過ス可ラストノ語ヲ下スニ至レリ然ルニ今府縣會ヲ設立シ中央政府ハ其附スヘキヲ附シ其約ス可キヲ約シ幾分ノ行政權ヲ地方ニ分與スルノ時運ニ遭遇シタレハ内務卿ハ其大綱ヲ總轄シ議決ヲ認可シ府知事縣令ハ之ヲ實施スルヲ責任トセハ小大相維シ綱張り目舉リ地方分權ノ實績粲然見ル可キニ至ラン故ニ是ヲ大緊要的ナリト認ム

○九番 河野 敏錄 修正說ヲ否ナリトス何ントナレハ從前區畫ノ制ナリ民費府縣稅ナリ其各地各樣區々ニ至リシ所以ハ一定ノ法則ナキヲ以



テナリ今本案ノ法律ヲ以テ之ヲ確定セハ其實施ニ於テ必ス區々ニ至ラサルハ各議官モ亦タ信シテ疑ハザル所ナルベシ然ルニ七番ノ說ニ本條ハ地方長官ノ職掌中最モ重大ナル事項ナレハ内務卿ニ具狀シテ其認可ヲ得ヘシト内務卿ハ地方官ヲ監督スルノ職任ナリ其監督者カ自ラ之ヲ認可スルトキハ則チ自ラ其事ヲ施爲スルニ均シ然レハ更ニ他ニ之ヲ監督スル者ナカル可ラス若シ萬一實際ノ施爲ニ不適當アリテ損害ヲ生セシトキハ其責ハ誰カ之ニ任スヘキヤ内務卿自カラ其責メニ任セザルヲ得ザルナリ且府知事縣令ヲ各地ニ配置シタルハ何ノ爲メナルヤ其風土人情ヲ洞悉シテ行政ノ便宜アルノ爲メニ非スヤ然ルヲ地方凡百ノ事務ヲ内務省ニテ牽掣ストセハ地方長官ハ之ヲ廢シテ可ナリ惟議案ヲ發シ會議ニ附ス事務ノ遞

傳者ニ過キサレハナリ若シ果シテ然ラハ一事アル毎ニ内務卿ハ其實際ノ情況ヲ詳ニスルコト能ハザルヲ以テ居常官吏ヲ派遣シ之ヲ審查セサルヲ得ズ然レハ即チ其施行上ニ於テ淹滯ヲ生シ人民困難スルノミナラス政府ノ煩雜ナル果シテ如何ソヤ故ニ本案ノ如ク府知事縣令ノ責任ヲ重クシ内務卿ハ之ヲ監督スルヲ以テ現況ニ徴シテ適當ナリトス海外ノ例ヲ引用スト雖モ各其建國ノ體殊異ナレハ我邦ニ於テハ之ヲ適切ナリトセズ

○十八番楠田英世 九番ハ修正說ヲ否ナリト言ト雖モ本官ハ之レニ左袒ス其修正說ノ精神ト結果トヲ簡畧ニ陳セン既ニ七番ニテ陳セシ如ク之ヲ認可スルノ權ハ府知事縣令ニ委任セス之ヲ内務卿ニ具狀シ其認可ヲ得ルハ鄭重ニシテ可ナリ之ヲ認可スルヲ内務省ニ移スハ



猶裁判事務ノ全權ヲ大審院ニ與ヘタルト同一ノ精神ナリ其説ヲ明確ニスルニハ比較ヲ取ルニ如ス先ツ之ヲ歐洲ノ成例ニ取ラン向キニ本院ニテ刊行セシホルセル氏ノ分權論ニモ詳論セシ如ク地方分權ヲ擴張セントシテ邑長州長モ邑州會議ノ選舉スル所トナリテ其地方ノ施政ニ支辨スル費目中ノ事ハ皆邑州長ノ專斷ニ任ストセシヨリ其州郡邑長等カ各自其好ム所ニ任セ學校或ハ病院教育所或ハ道路橋梁等尙ホ其他其人々ノ適意ニ施爲スルヲ以テ終ニ紛亂政事ノ混名ヲ下スニ至レリ其後之ニ懲リテ遂ニ政府ニテ收攬統括スルコトナリ稍クニ治平ニ歸シタリト其實況ヲ徵シテ痛論セリ本案ノ如キモ亦然リ其之ニ委任スルノ適度ヲ超過スレハ必ス紛亂政事ノ覆轍ヲ踏ニ至ラン故ニ内務卿ニテ之ヲ認可スルヲ適當ノ事ナリ

トス歐洲ニテハ内務卿ノミナラス君主ノ閱覽ヲ經テ其認可ヲ得ルナリ然レモ我邦ノ現狀ニ徵スレハ内務卿ノ認可ヲ以テ允當ナリトス願クハ修正説ノ如クナランコトヲ

○五番 細川潤次郎

本案ノ如ク施行スルモ必ス障礙有ル可ラスト雖凡ソ新法ヲ創始スルニ當テハ之ヲ古今ノ成敗ニ徵シ將來ノ得失ヲ考究シ周密鄭重ヲ要スルハ言ヲ待タス故ニ本官ハ七番ノ修正説ヲ贊成シタルナリ請フ試ニ其理由ヲ陳セン蓋シ制度ヲ創設スルニ方ツテハ必ス考據スル所ナカル可ラス若シ其考據トスル者ナキハ己ムヲ得サレモ之ヲ遠ク海外ニ徵求スレハ即チ許多ノ例規ノ在ルアリ本案ヲ熟讀スルニ其大意ハ海外ノ例規ヲ根據トシ現時ノ程度ヲ折衷シタルモノナリ故ニ姑ク佛國ノ例ヲ以テ比スレハ府縣會ナル



者ハ乃チ彼ノ州民議院ナリ此ノ議院ノ職掌ニ四五ノ條目アリ其一ハ國會ニ於テ議定セシ稅額ヲ各州ニ分賦ス州會之ヲ承諾スレハ之ヲ各郡邑ニ分賦ス若シ其適當ヲ失シ苦情アレハ之ヲ裁決ス其地方會議ニテ許否スルハ會議ノ專權ヲ全有シテ政府ノ認可ヲ受ケス其二ハ即チ本條ト恰モ適當スルモノニテ其地方經費支出ノ總額ヲ豫定シ及ヒ出納ノ決算ヲ審査スル等ナリ此項ハ君主ノ認可ヲ乞フモアリ地方長官ノ認可モアリ又内務卿ノ認可モアルナリ然レトモ其管轄ヲ受クルハ同一ナリトス其三其四ハ即チ本案ノ第七條第八條ノ如ク會議ノ所見ヲ建議シ意見ヲ問フニ答フル如キモノニシテ其權力稍少ナシ其五ハ官ニ請求スル是ナリ而シテ其第一ナル者ハ地方會議ノ主腦骨子ナレトモ如何セン本邦未タ國會ノ設ケナケレハ其

全權ヲ與フルニ由ナシ然レトモ其第二以下ハ即チ本家中ニ具備スレハ之ヲ佛國ノ憲法ニ依據シタリト言フモ敢テ失言ニハ非ルヘシ既ニ其憲法ヲ準據トナセハ其施爲モ亦タ之ヲ準據トナスヲ可トス本條ニハ地方會議ニ全權ヲ與ヘスシテ府知事縣令ノ意見ニ適セサレハ之ヲ内務卿ニ具狀ストセシハ蓋シ立案者ノ苦心ナルヘシ然レトモ具狀スルモ認可ヲ乞フモ其精神ニ於テハ大ナル徑庭アルニ非ス唯此議決ヲ以テ極メテ緊要的トナス點ヨリミレハ内務卿ノ認可ヲ得テ施行スルモ敢テ不可ナシ衆人經過ノ多キ道路ハ安全ナリトノ格言ノ如ク普ク古今萬國ニ徵証シ其依準ス可キ者アレハ之ニ依準スルヲ可ナリトス或議員ノ說ニ本案ハ第三號ト聯續セリ第三號ニ地方稅ノ目アリ又タ費目アリ以テ其制限ヲ爲スト是又タ本官ノ疑惑



スル所ナリ何ントナレハ地方税目ノ地租十分一以内ト營業雜種税ニハ其制限アリト雖モ第三項ノ戸數割ノ如キハ其制限ナシ既ニ其制限ナキキハ度外ニ賦課スト雖モ之レヲ如何トモスルコトナカル可シ又タ其費目ニ至テモ第一ノ警察第二ノ河港云云ノ如キハ人民ノ安寧ヲ保護シ一般公共ノ資益ノ爲メナレハ已ムヲ得ス巨額ノ經費ヲ要スルニ至ルコトアルヘシ是ノ時ニ方リ府知事縣令モ府縣會ノ議員モ其已ムヲ得サルヨリ協同議決ニ至ルヘシ然ルニ第一第二項ノ如キハ既ニ其制限アリ第三項ノ戸數割ノ如キハ其制限ナキヲ以テ其不足ノ額ハ之ニ賦課シテ完了スルニ至ルモ亦タ知ル可ラス若シ此ノ如キ形況ニ至ラハ徒ラニ分權ノ虛名ヲ豔美シ實際ノ艱苦ヲ顧ミサル者ト言フモ可ナリ豈ニ賢明政府ノ本意ナランヤ故ニ之ヲ牽

制スルノ法ナカル可ラス是レ本官ノ修正ヲ賛成スル所以ノ理由ナ

○六番 柳原前光

七番ノ本條ヲ修正セント欲ル要旨ハ府知事縣令ニ之ヲ認可スルノ權ヲ委任セス内務卿ニ具狀シ其認可ヲ得テ之ヲ實際ニ施行ス可シト本官ハ之レヲ否ナリトス何ントナレハ地方税ヲ以テ施行ス可キ事件ハ之レヲ會議ニ附シ其議決ヲ取テ施行ス府知事縣令ノ孟浪施爲スルニ非サルハ論ヲ待ス又タ其地方税ヲ徵收シ之ヲ支辨スル費目等ニ於テモ精詳ナル規則アルナリ且ツ府縣會ハ地方官トノ際氣脈流通スレハ其措置ニ於テ決シテ扞格ハナキモノナリ又タ其地方ノ事情ニ於テ之ヲ詳悉洞知スル者ハ誰ナルヤト言ヘハ内務卿ハ中央政府ニ在リ府知事縣令ハ其地方ニ在リ然レハ則チ其



優劣ハ間ヲ待スシテ明ナリ且ツ府知事縣令ハ議案ヲ發シ其旨趣ヲ  
 辨明シ其議決ヲ認可スル者ナレハ必ス七番ノ說ノ如キ措置ハ有ラ  
 サルナリ又タ本案ノ精神タルヤ地方稅ヲ以テ施行スル事件ハ摠テ  
 府縣會ニ委任シ其議決ハ毫モ動カス可ラスト言フニ非ス其議決ハ  
 府知事縣令之ヲ認可ス可シ若シ其認可ス可カラスト思慮スルトキ  
 之ヲ内務卿ニ具狀ス可シトセリ其認可スルヲ通例トナシ内務卿ニ  
 具狀スルヲ變例トナス本條ハ通例變例ヲ通シテ用ユルノ條款ナリ  
 或說ニ百事鄭重ヲ貴フト固ヨリ人民休戚ノ係ル所豈之ヲ輕易ニシ  
 テ可ナランヤ必ス鄭重ニセサル可ラス然レトモ亦タ其區別ナカル  
 可ラス例ヘハ裁判所ノ如ク區裁判所ヨリ漸次ニ大審院ニ至ルカ如  
 ク其鄭重ナル盡セリト謂フ可シ然レトモ直チニ大審院ヘ控訴スル

ヲ以テ之ヲ鄭重ナリト言フ可ラス或說ニ海外ノ例ヲ引証シテ地方  
 分權ハ紛亂政事云々ノ說アリ其引証トスル地方分權論ハ佛人ホル  
 セール氏ノ分權ヲ駁セル書ニシテ集權ノ一點ニ偏倚セシモノト謂  
 フ可シ以テ引証トスルニ足ラス悉ク書ヲ信セハ書ナキニ若カサル  
 ナリ又タ大審院ノ如キモ外國ノ如ク裁判無上ノ權ヲ有スルニ非ス  
 司法卿ハ其裁判ヲ不當ト認ムレハ之ヲ取消スニアラスヤ海外ノ制  
 ト大ニ其趣ヲ異ニセリ然レハ之ヲ引用シ以テ修正ノ辭柄トナス可  
 ラス本案ノ如キハ緩急順序其宜キヲ得タルモノナレハ之ヲ可トシ  
 修正ノ否ヲ辨駁スト

○十五番 福羽 美靜 修正ヲ可ナリトス本案ノ文ニ依レハ地方稅ニテ施行  
 スル事件ノ議案ハ府知事縣令ヨリ之ヲ發シ會議ニ附シ其議決ハ府



知事縣令ニテ之ヲ認可スト言ニ至テハ内務卿ハ一切委任シテ顧ミサルモノ、如シ是レ不可トスル所以ナリ之ヲ維新以前ノ實況ニ徵スルニ其領主地頭ナル者ヨリ各種ノ名目ヲ施シ其部民ヲ強誘ス部民ハ威逼セラレ己ムヲ得ス承諾スレハ其力ノ耐ルト耐サルトヲ顧ミス苛酷ニ徵收セリ此ヲ以テ人民ハ田畔ニ偶語シ路頭ニ私議シテ皆其聚斂ヲ怨嗟セサルナシ本案ノ如ク府知事縣令カ意旨ヲ以テ議案ヲ發シ會議ニ附シ其議決ヲ認可シ施行スルヲナレハ或ハ其意想ニ依リ過當ノ額ヲ徵收スルモ保ス可ラス其出納ノ決算ハ内務卿ニ報告ス可シト雖モ然レトモ此時ニ方テ事既往ニ屬スレハ之レヲ奈何トモナス可ラサルニ至ラン故ニ之ヲ内務卿ノ認可ヲ得ルトセハ必ス其過不及ヲ均平齊一スルニ至ルヘキナリ或ハ謂ン若シ然ラハ

府知事縣令ハ殆ント事務ヲ遞傳スルノミト豈其レ然ランヤ其費用ノ總額ヲ豫算シ又タ其事件ヲ實施ス其責任モ亦重大ナラスヤ決シテ謁者カ事ヲ遞傳スル如キニハ非ルナリ故ニ内務卿ノ認可ヲ得ルトスルヲ可ナリトス

○八番山口

尙勞

七番ノ修正說其理ナキニ非スト雖モ實際ノ如何ンヲ顧

ミサル可ラス七番ノ說ニハ地方稅ノ支辨ハ大政府之ヲ監督セサレハ必ス弊害ヲ生セント言フト雖モ本官必ス其憂ナシトス何ントナレハ本案ノ精神タルヤ現今マテハ地方稅ノ支辨ハ悉皆府知事縣令ニ委任セシ者ナレハ各地各異ノ弊アリ故ニ其弊ヲ矯正スルノ爲メ此法案ヲ制定セラレタルナリ其故ハ這回改正ノ府縣官職制ヲ閱ルニ府知事縣令ハ地方稅ヲ徵收シテ部内ノ支費ニ充ツルヲ得其預算



決算ヲ具エテ内務卿大藏卿ニ報告スルヲ要ス其府會縣會アル地方ハ之ヲ會議ニ附ス可シト記載セリ是レ其委任ニ過キタルヲ減殺スルノ意炳然トシテ明瞭ナリ然レハ七番ノ說ノ如キ憂ハ必ス其ナキヲ保ツナリ又々實際ニ於テモ中央政府ハ全國ノ形況ヲ詳悉通曉スルヲ能ハス故ニ府縣ノ會議ヲ起シ廣ク公議輿論ヲ取ルヲ施政ノ要點トスル所以ナリ或ル說ニ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費目即チ第三號議案ノ第三條第一第二項ノ如キハ莫大ノ費用ヲ要スト言ヘトモ是レ又々深ク憂トスルニ足ラス是ヲ實際ニ徵スルニ警察費ノ如キモ海外各國ノ制ト異ナレハ未タ巨費ヲ要スルニハ至ラス且ツ國道ノ如キハ固ヨリ地方稅ヲ以テ支辨スルヲナシ其餘ノ數項ハ皆ナ僅々タランノミ然レトモ是等ノ條項ニ於テハ其實際ノ得失緩急輕重

ト民力ノ耐否トニ至テハ中央政府ヨリハ府知事縣令善ク其實況ヲ詳悉スルハ論ヲ待ス故ニ其緊要ナル議案ノ起草ヲ府知事縣令ニ委任セシモノナリ海外ノ例ニ依レハ參事院ニテ起草ス今參事院ノ設ケナキヲ以テ府知事縣令ニ起草ノ權ヲ與ヘタルナリ會議院ニテハ其土地ノ利害得失ニ切實ナレハ興利除害ニ熱心スルナラン然レハ則チ議論周密精詳ニ涉リ府知事縣令ト一致協同スヘキハ疑ヲ容レズ若シ時アツテ議決ト府知事縣令ノ意旨ト齟齬スルトキハ之ヲ判決スルモノナカル可ラス此ノ時ニ方ツテハ内務卿ニ具狀シ其裁決ヲ受ク内務卿ハ雙方ノ事情ヲ詳究シテ之ヲ判決ス然レトモ此ノ如キ變態ニ至ルハ絶テ無クシテ纔ニアル者ト謂フヘキナリ若シ修正說ノ如クスレハ毎年之ヲ具狀シ其認可ヲ受ケサルヲ得ス今我邦ノ



現況ニテハ道路ノ便未タ開ケス文書往來ノ際徒ラニ三五旬ヲ空過  
 ス可シ且ツ會議ハ毎年三月ヲ以テスト雖モ時トシテハ四月ニ及モ  
 測リ知ル可ラス然レハ其具狀ハ殆ント六月ニモ至リ實際ニ於テ甚  
 シキ困難ヲ生ス可キナリ或說ニ例ノアルハ例ニ依ルヲ可トスト言  
 ト雖モ佛ノ例アリ英ノ例アリ必ス一ナラス其ノ利害得失ヲ論究ス  
 ルニ至テハ豈ニ一朝一夕ノ能ク盡ス所ナランヤ支那ノ如キハ地方  
 官全權ヲ有ス故ニ明宰賢令アレハ其政治刮目シテ視ル可キニ至ル  
 佛國ノ如キハ法律ノ全美ヲ以テ宇内ニ誇稱スト雖モ其國騷亂相踵  
 クニ非スマ故ニ府知事縣令ト會議院ト齟齬ヲ生セシトキノミ内務  
 卿之ヲ裁決シ其議案起草ハ地方官ニ委任ス可シ若シ修正ノ如クシ  
 テ内務卿ト會議院トノ際ニ齟齬ヲ生セシトキハ誰レカ之ヲ裁決ス

ルヤ即チ大政府之ヲ爲スヘキナリ且其金額モ巨大ニ上ルヘキニ非  
 ス故ニ本案ヲ以テ目今ノ世態ニ適當トナスナリ修正說ニ左袒スル  
 一能ハス

○議長 發議ノ既ニ盡タルヲ認メ七番ニ同意ノ者ヲ起立セシム

起立者九人

○議長 同意ノ者少數ナルヲ以テ七番ノ修正說ヲ廢棄シ本案ニ決シ  
 且時既ニ正午ナレハ少時休憩シテ午後引續キノ會ヲ開クヘキ旨ヲ  
 演述シテ散會セシム

正午第十二時閉場

午後第一時開場

欠席議員



廿三番 穴戸 璣

廿一番 田中不二磨

廿四番 津田 出

○議長 午前ヨリ引續キノ會ヲ開ク旨ヲ告ク

○書記官 戸田秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第六條 府縣會ハ毎年通常會議ノ初メニ於テ地方稅ニ係ル前年度ノ出納決算ノ報告書ヲ受ケ之ヲ審査スルコトヲ得

○議長 發議ナキヲ以テ本條ニ同意ノ者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全會一致本條ヲ可トシタルハ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第七條 通常會期中議員ノ内一人又ハ數人其府縣内ノ利害ニ關ス

ル事件ニ付政府ニ建議セントスル者アレハ議長ノ許可ヲ得テ之

ヲ會議ニ附シ過半數ノ同意ヲ得タルトキハ其會ノ所見トシ議長

ノ名ヲ以テ之ヲ内務卿ニ建議スルヲ得

○議長 發議ナキヲ以テ本案ニ同意ノ者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全會一致本條ヲ可トシタルヲ以テ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第八條 府縣會ハ府知事縣令ヨリ其府縣内ニ施行ス可キ事件ニ付

會議ノ意見ヲ問フコトアルトキハ之ヲ議ス

○議長 發議ナキヲ以テ本案ニ同意ノ者ヲ起立セシム



○ 全員悉起立

○ 議長 全會一致本案ヲ可ト決シタレハ次條ニ移ラシム

○ 書記官 戸田 秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第九條 府縣會ハ議事ノ細則ヲ議定シ府知事縣令ノ認可ヲ得テ之

ヲ施行スルコトヲ得

○ 議長 發議ナキヲ以テ本案ニ同意ノ者ヲ起立セシム

○ 議長 全員悉起立

○ 議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ次條ニ移ラシム

○ 書記官 戸田 秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第二章 撰擧

第十條 府縣會ノ議員ハ每郡區其人口一萬ニ滿サル者ハ一人ヲ選

ヒ一萬以上ハ二人ヲ撰ヒ四萬以上ハ二萬毎ニ一人ヲ加フ

○ 議長 發議ナキヲ以テ本案ニ同意ノ者ヲ起立セシム

全員悉起立

○ 議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ次條ニ移ラシム

○ 書記官 戸田 秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ公選シ府知事縣令之ヲ認可ス

ヘシ議長副議長及ヒ議員ハ俸給ナシ但會期中滞在日當及ヒ往復

旅費ヲ給ス其額ハ會期ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

○ 七番 佐野 常民 本條ニ僅々タル修正說ヲ提出セントス本條ニ議長副議

長ハ議員中ヨリ公選シ府知事縣令之ヲ認可スヘシトアリ議長副議

長ハ議員中ノ公選ニ係ル者ト雖モ議事ヲ整理スルノ重任アツテ一



般ノ議員ト異ナリ故ニ府知事縣令ニテ之ヲ認可セハ直チニ其姓名  
 ヲ内務卿ニ報告ス可シ海外各國ニ於テハ會議ノ典則許多アリト雖  
 モ和蘭ノ如キハ議長副議長ヲ公選シテ君主ノ命ヲ以テ之レヲ任ス  
 然レトモ我邦ハ歐洲ト異ナリ道路ノ便未タ開ケス故ニ之レヲ政府  
 ニ上申スルモ其間徒ラニ時日ヲ淹滯ス可シ是等ノ事故アルヲ以テ  
 政府ノ命ヲ以テ之ヲ任スルヲ能ハス然レトモ之ヲ海外ノ例ニ比較  
 シ同等位ヲ占ムル能ハサルモ府知事縣令ニテ之ヲ認可シタル後チ  
 直チニ内務卿ニ報告スルモノトセハ現況ノ程度ニ於テ允當ナラン  
 仍テ(府知事縣令之ヲ認可シ内務卿へ報告ス可シ議長副議長云々)  
 ト修正セハ會議ノ權力ヲ増シ且ツ其選ニ當リシ者ノ榮譽ナラン故  
 ニ報告ヲ肝要トナス議者或ハ謂ハン之レヲ明掲セストモ府知事縣

令ハ必ス之ヲ内務卿ニ具狀ス可シト是レ徒ラニ議者ノ臆想ノミ苟  
 モ法律トナシ將來ニ垂ル、者ハ必ス明瞭ニ之ヲ掲載スルニ非レハ  
 不可ナリ若シ賛成者ヲ得テ議場ノ問題トナルヲ得ハ幸甚ナリト  
 ス

○九番 河野 敏録 賛成

○十一番 黒田 清綱 賛成

○十二番 秋月 種樹 賛成

○八番 山口 尙芳 賛成

○十番 東久世 通禱 賛成

○議長 七番ノ修正ニ五名ノ賛成者アレハ之ヲ議場ノ問題トナス

○六番 柳原 前光 本官ハ不適當ノ修正ト認ム何ントナレハ議長副議長モ



衆議員ノ中ヨリ公選シタル者ニ非スヤ若シ衆議員ノ姓名ヲシテ悉皆之ヲ報告スト爲スハ其理ナキニ非スト雖モ特ニ議長副議長ノミヲ報告スルハ其當ヲ得サル者トス實際ヲ揣測スレハ必ス府知事縣令ヨリ議員ノ姓名ヲ報告スヘシ若シ之レヲ爲サ、レハ内務卿ヨリ垂問シテ可ナリ何ソ故ヲニ議長副議長ノミヲ報告スルヲ用ンヤ議者或ハ謂ン其之レヲ報告スルハ長ヲ重ンスル爲メナリト豈其レ然ランヤ會議ハ議員ヨリ成立シタルモノナレハ議員ナケレハ會議ヲ爲ス可能ハス議員即チ會議ノ精神ナリ然レハ特ニ議長副議長ノミヲ重シト爲ス可ラサルナリ故ニ痛ク之ヲ駁撃セサルヲ得サルナリ

○七番 佐野常民 六番ヨリ痛ク駁撃ヲ受ケタリ其言ニ議員ハ報告ヲ爲サス特ニ議長副議長ノミヲ報告スルハ不適當ナリト言ト雖モ豈ニ其

然ランヤ本官ハ六番ノ駁論ヲ以テ不適當トナスナリ其故ハ議長副議長ハ一般ノ議員ト殊別視スルヲ以テ府知事縣令之ヲ認可スルニ非スヤ歐洲ノ典例ニテハ議長副議長ハ其選任ヲ重クシ君主ノ特命ヲ以テ之ヲ任スルナリ既ニ本案ニ於テモ府知事縣令之ヲ認可スルトセシハ他ノ議員ト特異ナル所以アレハナリ然レハ府知事縣令之ヲ認可シ直チニ内務卿ヘ報告スルヲ允當トナスノ理由以テ知ルヘキナリ

○九番 河野敏謙 六番ノ駁議之ヲ緘默ニ附スル能ハス議員ト議長副議長ト同一視スルハ甚タシキ誤見ト謂フ可シ何ントナレハ議長ハ議事ヲ整理スルノ任アルノミナラス府縣會議ノ摠名代タル責任アルナリ本案第七條ニ議長ノ名ヲ以テ内務卿ニ建議スルヲ得トアリ然



レハ則チ之ヲ報告スルハ特ニ其選ニ當リシ者ノ榮譽面目ノミナラ  
ス必ス内務卿モ亦タ其姓名ヲ知ラサル可ラサルナリ故ニ之ヲ報告  
スルヲ緊要ナリトシテ修正ノ説ニ左袒セシナリ

○八番 山口 必ス報告ス可キナリ若シ之ヲ報告セサルトキハ第七條  
ノ議長ノ名ヲ以テ建議スルニ方リ内務卿ハ其何人タルヲ知ル能ハ  
ス又タ其姓名ヲ詐冒スル者ナシトモ保ツ可ラス故ニ修正ノ如クナ  
ラサレハ不可ナリ

○議長 發議ナキヲ認メ七番ノ修正ニ同意ノ者ヲ起立セシム  
起立者十五人

○議長 多數ヲ以テ七番ノ修正ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田 秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第十二條 議長ハ書記ヲ選ヒ庶務ヲ整理セシム其俸給ハ會費ノ中  
ヨリ之ヲ支給ス

○七番 佐野 常民 本條字句整頓セサル所アリ何ントナレハ議長ハ書記ヲ  
選ヒ云々はナリ本案第九條第十條第十一條ノ數條ニ於テハ其主眼  
タル者ヲ冒頭ニ掲ケタリ本條ハ書記ヲ主眼トセハ宜シク之ヲ冒頭  
ニヲキ(書記ハ議長之ヲ選ヒ云々)ト修正ス可シ然レハ其体裁正シク  
且ツ字句モ亦タ整頓ス可キナリ

○九番 河野 敏鎌 賛成

○十一番 黒田 清綱 賛成

○十五番 福羽 美静 賛成

○十六番 大給 恒 賛成



○八番山口 尙芳 賛成

○議長 七番ノ修正説ニ五名ノ賛成ヲ得タレハ之ヲ議場ノ問題トナス

○八番山口 尙芳 賛成シタル所以ヲ陳セン本條ハ議長ノ職掌ヲ以テ書記ヲ選舉スル所ナレハ其主眼タル者ハ書記ナリ故ニ修正ノ如クスレハ順序其宜キヲ得タル者トス

○議長 發論ナキヲ認メ七番ノ修正ニ同意ノ者ヲ起立セシム  
起立者十九人

○議長 多數ヲ以テ七番ノ修正ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官戸田 秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第十三條 府縣ノ議員タルヲ得ヘキ者ハ滿二十五歳以上ノ男子

ニシテ其府縣内ニ滿一年以上住居シ且ツ其府縣内ニ於テ地租五圓以上ヲ納ムル者ニ限ル但シ左ノ各款ニ觸ル、者ハ議員タルヲ得ス

第一款 風癲白痴ノ者

第二款 懲役一年以上實決ノ刑ニ處セラレタル者

第三款 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四款 官吏及教導職

○議長 發議ナキヲ以テ本按ニ同意ノ者ヲ起立セシム  
起立者十八人

○議長 多數ヲ以テ本按ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官戸田 秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス



第十四條 議員ヲ選舉スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歲以上ノ男子ニシテ其郡區内ニ滿一年以上住居シ且其府縣内ニ於テ地租十圓以上ヲ納ムル者ニ限ルヘシ

但前條ノ第一款第二款第三款ニ觸ル、者ハ選舉人タルヲ得ス

○議長 發議ナキヲ以テ本按ニ同意ノ者ヲ起立セシム

起立者十八人

○議長 多數ヲ以テ本按ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第十五條 議員ヲ選舉セントスルトキハ府知事縣令ヨリ其月間ニ選舉會ヲ開クヘキ旨ヲ布令シ郡區長ハ豫メ選舉ノ投票ヲ爲スヘ

キ日ヲ定メ少クトモ十五日前ニ之レヲ郡區内ニ公告ス可シ

○議長 發議ナキヲ以テ本按ニ同意ノ者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全會一致可トシタルヲ以テ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第十六條 選舉ノ投票ハ豫定ノ日ニ郡區廳ニ於テ之ヲ爲シ郡區長之ヲ調提シ選舉會中ノ取締ヲ爲ス可シ但便宜ニ因リ郡區廳外ニ於テ選舉會ヲ開クヲ得

○七番 佐野常民 本條ニ於テ聊カ文字ノ修正ヲ欲ス調提ノ字ハ世上ノ使用ニ慣レサル字面ナリ調査ト改メハ世人ノ耳目ニモ慣熟シタレハ提ヲ(查)ト修正スルヲ可ナリトス



○十四番 水本 成美 賛成

○九番 河野 敏鎌 賛成

○十六番 大給 恒 賛成

○十五番 福羽 美静 賛成

○三番 山尾 庸三 賛成

○議長 七番ノ修正説ニ賛成者アルヲ以テ議場ノ問題トナス發議ナ  
キヲ以テ七番ノ修正説ニ同意ノ者ヲ起立セシム

起立者十七人

○議長 多數ヲ以テ七番ノ修正ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田 秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第十七條 投票ハ豫メ郡區長ヨリ附與シタル用紙ヲ以テ選舉場外

ニ於テ選舉人自己及ヒ被選人ノ住所姓名年齢ヲ記シ豫定ノ日之  
ヲ郡區長ニ出スヘシ投票ハ多數ノ者ヲ以テ當選人トシ同數ノ者  
ハ年長ヲ取り同年ノ者ハ鬮ヲ以テ之レヲ定ム

○八番 山口 尚芳 本條ニ於テ僅々ノ文字ヲ删除シ且ツ但書ヲ加ヘテ便宜  
法ヲ與ントス何ントナレハ本條ノ如クナレハ郡區廳ニ於テ選舉會  
ヲ開クニ方リ選舉スルヲ得可キ權利ヲ有シタル者ハ皆ナ悉ク選舉  
場ニ集會セサルヲ得ス然レハ則其郡區ノ形況ニ因リ數萬人ノ多キ  
ニ至ルモ知ル可ラス果シテ然ヲハ其雜沓知ルヘキナリ且ツ夥多ノ  
人民ノ中ニハ自己ノ姓名ダモ記シ得サルモノモアラン故ニ投票ヲ  
代人ニ托スルノ一路ヲ開キ便宜ヲ與エントス各自必ス選舉場ニ臨  
マサルモ實際ニ於テ毫モ利害得失アルヲナシ目今更改ノ際ナレハ



多人數群集セハ或ハ異論ヲ生シ浮説ヲ唱ヘ物情ヲシテ騷然タラシムルノ虞ナキヲ保タス故ニ便宜ノ餘地ヲ與フル爲メニ但シ書ヲ附加シテ(但シ投票ハ代人ニ托シ差出スモ妨ケナシ)ト此ノ如クスレハ官民ノ際其便利ヲ爲ス者蓋シ鮮少ナラストス又タ其僅々文字ヲ删除セントスルハ(郡區長ヨリ豫メ附與シタル用紙ヲ以テ選舉場外ニ於テ選舉人自己及ヒ云々)ノ行ニ於テ(ヲ以テ選舉場外ニ於テ)ノ十字ヲ删除シ(附與シタル用紙ニ選舉人自己ノ姓名及被選人云々)ト修正ス可シ何ントナレハ選舉場外ト言フトキハ郡區廳ノ門外ニテ手記セサルヲ得スト錯認スルモ保ツ可カラス故ニ修正ノ如クセハ選舉人隨意トナルヘシ是レ又タ其便宜ノ地ヲ與フルナリ

○廿二番 中島 信行 賛成

○九番 河野 敏鎌 賛成  
 ス其理由ハ選舉區域廣濶ナルヲ以テ許多ノ人員群集セハ必ス其選舉場ノ混雜知ル可キノミ且ツ道程遠隔ノ土地ヨリ各自集合ス可シトセハ必ス選舉ノ爲メ許多ノ費用ヲ消耗スルハ斷シテ知ルヘキナリ然レハ則チ政府休養生息ノ盛意ニ反戾ス可シ故ニ此盛意ヲ體認セハ代人ヲ用ルノ便宜ヲ與フルヲ可トス本官ハ但書ヲ附加スルヲ允當ナリトス又タ選舉場外ニ於テ云々ヲ錯認スルモノモ亦タ必スナシトモ保ツ可カラス此ノ如キ曖昧ノ字ハ删除スルヲ可トス故ニ八番ノ修正ノ如ナランヲ望ム

○六番 柳原 前光 賛成

○七番 佐野 常民 賛成

○十七番 山田 顯義 賛成



○議長 八番ノ修正説ニ賛成者アルヲ以テ議場ノ問題トナス

○十五番 福羽美静 本按ヲ可ナリトス但書ヲ加フレハ人民却テ選舉ノ權

ヲ輕視スルノ弊ヲ生セン且ツ目今ノ民情ヲ洞察スルニ自ラ事ヲ爲スヲ嫌ヒ多クハ之ヲ人ニ托スヲ好ムノ情態ナレハ今此便宜ノ門ヲ開クハ不可ナリ且ツ選舉場外ニ於テノ字删除ス可カラス其故ハ選舉場内ニ於テ手記スルモ知ル可カラス然レハ其混雜ナル言フ可ラサルニ至ラン故ニ之レヲ禁止スル爲ナリ然レトモ他ニ好字面アレハ之ヲ換ルモ不可ナシト雖モ若シ好字面ナキトキハ本條決テ動カス可カラサルナリ

○八番 山口尙芳 或ル議官ノ説ノ如ク目今ノ人民ノ情態ヲ考察スルニ先ヲ爭テ選舉場ニ趨クヲ好ムノ風習ナレハ何ソ必シモ但書ヲ附和ス

ルヲ用ンヤ然レトモ必ス之ニ赴趨スルヲ好マサル者蓋シ十中ノ九以上ニ居ルノミナラス里程遠隔ノ地モアラン故ニ代人ニ托スルノ便宜ヲ與フレハ各自ノ居宅ニテ之ヲ書記スルモ亦タ隨意ニシテ費用モ大ニ減殺スルハ知ルヘキナリ既ニ但シ書ヲ附加スレハ選舉場外云々ヲ删除セサル可カラス然ラサレハ必ス迷誤ヲ生スルモノアラシ故ニ之ヲ修正セサル可カラサルナリ

○議長 發論ノ既ニ盡タルヲ認メ八番ノ修正ニ同意ノ者ヲ起立セシム

起立者十八人

○議長 多數ナルヲ以テ八番ノ修正ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス



第十八條 投票終ルノ後チ郡區長ハ選舉人名簿ニ就テ投票ノ當否

ヲ查シ又タ被選人名簿ニ就テ當選人ノ當否ヲ查ス若シ法ニ於テ  
不適當ナル者アルカ或ハ當選人自ラ其職ヲ辭スルトキハ順次投  
票ノ多數ヲ得タル者ヲ取ル

○六番 柳原前光 第二讀會ノ決議ニ依リ本條ヲ修正セリ然ルニ却テ其文

意晦湮シテ明瞭ナラス故ニ再ヒ之ヲ修正セサルヲ得ス然レトモ本  
按ノ精神ヲ害スルニハ非サルナリ何ントナレハ若シ法ニ於テ不適  
當ナル者アルカ或ハ當選人自ラ其職ヲ辭スルトキハ順次投票ノ多  
數ヲ得タル者ヲ取ルトアリ此文ノ如クナレハ不適當ナル者カ或ハ  
其選ヲ辭シタル者カ其一方ノミニ係リテ二方ニ係ラサルノ嫌アリ  
恐ラクハ選舉ノ際混雜ヲ生ス可シ故ニ(若シ法ニ於テ不適當ナル

者アルトキハ之ヲ除キ當選人ハ順次投票ノ多數ヲ得ル者ヲ取ル)  
ト修正シ又タ但書ヲ加ヘ(但當選人自ラ其撰ヲ辭スルトキモ亦タ  
順次投票ノ多數ヲ得タル者ヲ取ル)ノ一項ヲ加フ可シ然レハ則チ  
毫モ本按ノ意ヲ害セス文理判然明晰ニシテ疑ヲ其間ニ容ル、者ナ  
カラン

○二十二番 中島信行 本按第二讀會ニ於テ本官ノ修正ニ決議セリ尙ホ是

レヲ熟慮スルニ本按ニ朱ヲ以テ抹殺セシ八字ヲ活用セサレハ文章  
接續セス且ツ順次投票云々ニテハ被選者ノ不法ト選舉者ノ不法ト  
當選人ノ自ラ辭スルト三個ヲ包有シテ綜括スル者トハ認め難シ故  
ニ本文ニハ二個ノ不法者ノミヲ掲ク自ラ其撰ヲ辭スル者ハ之ヲ但  
書ニ掲ク此ノ如クナレハ本按ノ精神ヲ活潑ナラシメ文意明了判然



タリ故ニ六番ノ説ヲ賛成ス

○十番 東久世 通禎 賛成

○十五番 福羽 美静 賛成

○八番 山口 尙芳 賛成

○議長 六番ノ修正説ニ賛成者五名ニ滿タサルヲ以テ之ヲ廢棄シ本按ニ同意ノ者ヲ起立セシム

起立者十六人

○議長 多數ヲ以テ本按ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田 秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第十九條 當選人ノ當否ヲ查定スルノ后郡區長ハ其當選人ヲ郡區廳ニ呼出シ當選狀ヲ渡シ當選人ハ請書ヲ出スヘシ

○七番 佐野 常民 修正セント欲ス第二讀會ノトキ當選人查定ノ后チ其郡

區内ニ報告スルヲ要ストノ修正説アリキ當時ハ之ヲ掲ケサルモ實際ニテハ必ス之ヲ爲スヘシト信シ之ヲ掲載スルヲ要用トモ見認メサリシナリ然レトモ猶ヲ審按熟慮スルニ其郡區内ノ摠代人トシテ休戚ニ關スル事件ヲ信任セシモノナレハ其姓名ヲ報告スルハ緊要ナル事ナリ且其郡區ニ於テモ其當否ノ如何ヲ憂慮ス可シ故ニ本條ニ但シ書ヲ加ヘ(但當撰人各請書ヲ出シタル后郡區長ハ其姓名等ヲ郡區内ニ公告ス可シ)ト此一項ヲ附加センコトヲ欲スルナリ

○十八番 楠田 英世 賛成

○十番 東久世 通禎 賛成

○三番 山尾 庸三 賛成



○十五番 福羽美静 賛成

○十二番 秋月種樹 賛成

○議長 七番ノ修正説ニ賛成者アルヲ以テ議場ノ問題トナス

○議長 發議ナキヲ以テ七番ノ修正ニ同意ノ者ヲ起立セシム

起立者十一人

○議長 多數ヲ以テ七番ノ修正ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第二十條 一人ニシテ數郡區ノ選ニ當ルトキハ其何レノ郡區ニ屬

ス可キハ當人ノ好ニ任ス可シ

○議長 發議ナキヲ以テ本按ニ同意ノ者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全會一致可ト決シタルヲ以テ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第二十一條 議員ノ任期ハ四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改撰ス第

一回二年期ノ改選ヲ爲スハ抽籤法ヲ以テ其退任ノ人ヲ定メ滿四

年ニシテ全數ヲ改選ス

○議長 發議ナキヲ認メ本按ニ同意ノ者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全會一致可ト決シタルヲ以テ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第二十二條 議長副議長ノ任期ハ二年トシ議員ノ改選毎ニ之ヲ公

選スヘシ



○議長 發議ナキヲ以テ本按ニ同意ノ者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全會一致可トシタルヲ以テ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第二十三條 前二條ノ場合ニ於テハ前任ノ者ヲ再撰セルヲ得

○議長 發議ナキヲ以テ本按ニ同意ノ者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全會一致可トシタルヲ以テ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第二十四條 議員中第十三條ニ掲クル諸款ノ場合ニ遭遇スル者ア

ルカ其府縣外ニ轉住スルカ死去シタルカ又ハ疾病アル等止ムヲ

得サル事故ナクシテ開會ノ招集ニ應セサル者ハ退職者トシ更ニ

其欠ニ代ル者ヲ選舉ス

○七番 佐野常民 本條ニ於テ修正ノ意見ヲ提出セン第二讀會ノトキ内閣

委員ノ說ニ依リ修正ヲ爲セシト雖モ猶之ヲ熟讀スルニ退職者トシ

云々ノ語前ノ數項ニ係ルノ嫌アリ法律ノ文ハ一字苟モセス森嚴明

確ナルヲ要ス仍テ(議員中第十三條ノ場合ニ遭遇スル者アルカ其

府縣外ニ轉住スルカ又ハ死去シタルトキハ更ニ其欠ニ代ル者ヲ選

擧ス其疾病等止ムヲ得サル事故ナクシテ開會ノ招集ニ應セサル者

ハ退職者トシ亦タ其欠ニ代ル者ヲ選舉ス)ト修正セハ一目瞭然ト

シテ錯誤ノ患ナカラシ

○六番 柳原前光 賛成



○十六番 大給 恒 賛成

○十八番 楠田 英世 賛成

○十四番 水本 成美 賛成

○三番 山尾 庸三 賛成

○議長 七番ノ修正説ニ賛成者アルヲ以テ議場ノ問題トナス

○議長 發議ナキヲ認メ七番ノ修正ニ同意ノ者ヲ起立セシム

起立者十六人

○議長 多數ナルヲ以テ七番ノ修正ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田 秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第三章 議則

第二十五條 議員半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス

○議長 發議ナキヲ以テ本案ニ同意ノ者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全會一致可トスルヲ以テ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田 秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第二十六條 議事ハ多數ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可

否スル所ニ依ル

○六番 柳原 前光 僅々タル修正ヲ欲ス第二讀ノトキ十五番多數ヲ過半數

ト爲スノ説アリ該時本官ハ賛成ノ機會ヲ失シタルニ依リ這回更ニ之ヲ提出ス本案ノ第七條ニ過半數ノ同意ヲ得タルト云々トアリ然レハ本條モ亦タ同一ノ体裁ナルヲ可トス過半數ト多數ト甚シキ經庭ナキカ如クナレトモ其事實ニ至テハ大ナル差異アリトス譬ハ



五人ニテ事ヲ議スルニ過半数ナレハ三人ノ協同ヲ要スレトモ之ヲ  
多数トスルトキハ各自大同小異ノ論ヲ持スルニ方テハ二人即チ多  
數トナラン是レヲ不十分ノ多数ト謂フ且ツ議事ノ字面ハ全篇中唯  
本條ノミ他ハ皆ナ會議ト書ス然ラハ本條モ亦タ之ヲ會議ニ作り全  
篇同一ノ体裁ヲ可ナリトス

○五番 細川 潤 次郎 賛成

○十五番 福羽 美静 賛成

○二十二番 中島 信行 賛成

○七番 佐野 常民 賛成

○八番 山口 尙芳 賛成

○議長 六番ノ修正說ニ賛成者アルヲ以テ議場ノ問題トナス

○五番 細川 潤 次郎 本條ヲ過半数ト修正セサル可ラス何ントナレハ第七

條ト同意義ナレハ同一般ノ体裁ニセサル可ラス若シ然ラサレハ其  
事實ノ異ナル者ト誤視スルノ弊ヲ生ス可キナリ第二十五條ノ半数  
以上モ亦タ過半数ナリ即チ英語ノ「マジョリティ」ナリ從來譯者ノ  
意見ニヨリ之ヲ多数トナシ又タハ之ヲ過半数ト譯ス者アリト雖モ  
然レトモ法律ノ文ニ於テハ其義例同一ナラサレハ不可ナリ第十七  
條ニ多数ト言ヘルトハ意義自ラ異ナル者アリ譬ヘハ三十人ノ議員  
アリ其過半数ノ同意ヲ得ルニハ十六人以上ナルヘシト雖モ單ニ多  
數トノミ言フトキハ七人乃至十人ニテモ多数トナルコアルヘシ故  
ニ過半数トナスハ緊要ノ事ナリ故ニ修正ヲ賛成セリ

○九番 河野 敏録 本案ヲ可ナリトス何トナレハ本邦未タ會議ノ法則一定



セス既ニ地方官會議ニ於テモ同議ノ多數ニ決シテ過半数ニ非ス故  
ニ今遽カニ之ヲ確定セス先ツ姑ラク地方ノ便宜ニ任テ可ナリ議長  
副議長ヲ公選スルモ多數ナリ海外ノ例ヲ徵スルニ三分ノ二以上ノ  
同意ニ非サレハ不可トセリ然レトモ如何セン現今ノ本邦ノ状態ニ  
テハ本院議事ノ過半数ニ決スルノ規則ヲ以テ普天下ニ及ボスヲ得  
ヘカラス故ニ姑ラク地方官ノ便宜ニ任スノ餘地ヲ與フ可キナリ若  
シ之ヲ緻密ニ論シ來レハ其多數ナル者モ摠員ノ多數ナルカ將タ出  
席人ノ多數ナルカモ亦知ル可ラス故ニ其制限ニモ論究シテ之ヲ確  
定セサレハ不可ナリ本案故ラニ修正スルヲ用ヒス

○六番 柳原前光 九番ノ駁議ハ之ヲ辨セサルヲ得ス既ニ地方官會議ハ多  
數ニ決シタレハ何ソ必シモ府縣會ニ過半数ヲ用ヒンヤト言ト雖モ

地方官會議ノ不整頓ナル結果ヲ以テ府縣會モ亦タ其擧ニ倣フテ可  
ナリト言フハ之ヲ不適當ト謂ハサル可ラス本案第七條ニ過半数ノ  
同議ヲ得テ云ヤトセリ然ラハ本條モ亦タ過半数トセサレハ不可ナ  
リ且ツ摠員ノ多數カ將タ出席ノ多數ナルカ知ル可ラスト言フハ本  
案ヲ通讀セサルノ謬誤ナラン試ニ本案第二十五條ヲ見ル可シ議員  
半数以上出席云ヤトアルニ非スマ然ラハ則チ本條ノ出席タルヲ言  
フ待スシテ明ラカナリ第七條ノ過半数ハ折半以上ト解スルヨリ他  
ニ解法ハナキナリ蓋シ會議ノ精神タル議決ニ過半数ノ充分ナルト  
多數ノ不充分ナルト孰レカ優ルト言ハ、必ス村童野豎ノ知識ナキ  
者モ亦タ其充分ヲ望ムハ辨ヲ待スシテ知ルヘキナラスヤ

○八番 山岡 本條過半数ト修正セサル可ラス第七條ト本條トハ同一



ノ体裁ト爲スヲ可ナリトス或ル議官ノ説ニ姑ラク多數トナシテ餘地ヲ與フルハ便法ナリト言フハ立法官ノ言フヘキ語ニ非ス既ニ地方官會議ニ好結果ヲ得サリシハ皆其不十分ナル多數ニ決セシ故ナラスヤ且原案ノ多數トアルハ即チ過半数ヲ指スナリト委員モ曾テ之ヲ説明セリ然レハ苟シクモ之ヲ法律トシテ掲クルニハ明瞭ニ記載シテ毫髮疑ヲ其間ニ容ル、者ナキヲ要スルナリ

○議長 發議ナキヲ認メ六番ノ修正ニ同意ノ者ヲ起立セシム

起立者十三人

○議長 多數ヲ以テ六番修正ニ決シタルヲ告ケ次條ニ移ラシム

○書記官戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第廿七條 府知事縣令若クハ其代理人ハ會議ニ於テ議案ノ旨趣ヲ

辨明スルヲ得但決議ノ數ニ入ルコトヲ得ス

○議長 發議ナキヲ以テ本案ニ同意ノ者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全會一致本案ヲ可トシタル旨ヲ告ケ次條ニ移ラシム

○書記官戸田秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第二十八條 會議ハ傍聽ヲ許ス但府知事縣令ノ要メニ依リ又ハ議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルヲ得

○議長 發議ナキヲ以テ本案ニ同意ノ者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全會一致本案ヲ可トシタル旨ヲ告ケ次條ニ移ラシム

○書記官戸田秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス



第二十九條 議員ハ會議ニ方リ充分討論ノ權ヲ有ス然レトモ人身  
上ニ付テ褒貶毀譽ニ涉ルコトヲ得ス

○七番 佐野 常民 本條ニ修正ヲ欲ス議員ハ會議ニ方リ充分討論ノ權ヲ有  
ス然レトモ人身上ニ付テ褒貶毀譽ニ涉ルヲ得スト此ノ如ク明確ニ  
掲載シ來レハ原案第十七條ノ泛ク大政ニ及フヲ得スノ意ヲ本條中  
ニ挿入ス可シ議者或ハ謂ハン會議ハ各自肝膽ヲ吐露シテ審議討論  
スルヲ要セハ制限ナキヲ可トス若シ制限アルトキハ其言論ヲ局促  
シ胸臆ヲ叩竭スルコト能ハスト是レ其理ナキニ非スト雖モ亦タ其大  
政ニ論及スルヲ預防セサル可ラス既ニ之ヲ預防スヘシトスレハ明  
文ヲ以テ之ヲ禁遏スルニ如ス又タ或議官ノ說ニ大ハ小ノ反對ナリ  
大政ト言ヘハ小政ナカル可ラス其大小ノ區別ハ何ヲ以テ立ツルヤ

ト論セリ其區別タル又タ容易ニ識リ易キ者ナリ譬ハ諸省ノ事務ニ  
於テ一省ノ事ヲ議スルト一局ノ事ヲ議スルトノ區別アリ之ト同比  
例トスレハ以テ知ルヘキナリ全國ニ涉ル事件ヲ府縣會ニテ其得失  
ヲ議スルハ不可ナリ仍テ之ヲ制限シ人身上ノ毀譽ハ固ヨリ論ナシ  
大政ノ得失ヲモ議シ及ホス可ラスト爲ス可シ故ニ修正シテ(議員  
ハ會議ニ方リ充分討論ノ權ヲ有スト雖モ大政ノ得失及ヒ人身ノ毀  
譽ニ涉ルヲ得スト爲シテ可ナリ既ニ毀譽ト記載セハ褒貶モ含有  
セリ然レハ殆ント贅疣ニ類ス之ヲ刪除シテ可ナリ

○十四番 水本 成美 賛成

○九番 河野 敏録 賛成

○十七番 山田 顯義 賛成



○三番山尾 賛成

○一番津田 賛成  
真道

○議長 七番ノ修正説ニ賛成者アルヲ以テ議場ノ問題トナス

○二十二番中島 信行 本官ハ修正ヲ要用ナリトセス其理由ハ第二讀會ニ於テ詳述セリ然レトモ再ヒ之レヲ陳セサルヲ得ス大政ノ得失ノ字ヲ挿入スルハ殆ント無用ノ業ナリ何ントナレハ府縣會ノ權限ハ第一章ノ總則ニ詳悉遺サス其範圍ヲ畫セリ然ルニ今大政ノ得失ノ字ヲ挿入スルハ蛇足ナリ啻ニ蛇足ナルノミナラス却テ法律ノ意ヲ害スルヲ恐ル譬ハ人ニ示スニ範圍ハ之ナリト言ヘハ人必ス其範圍ヲ知ル可シ然ルニ本條ニ於テ更ニ此ノ禁止ノ語ヲ掲クレハ或ハ其禁止ニ係ラサルトハ何事ヲ論シ何事モ爲シ得ヘシト錯誤スルノ端緒

ヲ開キ遂ニハ府縣會ヲ成立スルヲ得サルニ至ラン議者或ハ謂ン若シ之ヲ掲ケサレハ國家ノ大害ヲ爲ント豈其レ然ランヤ若シ果シテ然ラハ閉會解散ヲ命スルニ非スヤ且ツ大政ノ區域ハ未タ判然タル明解ナシ然ラハ則チ大政ハ何レノ點ヨリシ府縣會ハ何レノ點マテナルヤヲ知ルコト能ハス是レ則チ府縣會ノ精神ヲ妨害スル者ト謂フヘキナリ

○七番佐野 常民 二十二番ノ駁議ヲ得ルモ本官其説ニ服セス若シ其説ノ如クナラハ人身上ノ毀譽云々ト謂フモ又無用ナリ何ントナレハ府知事縣令ヨリ發スル議案ナレハ人身上ノ褒貶毀譽國家ノ安寧ヲ害スル議案ヲ發スル憂アルコトナシ然レトモ其議論問題外ニ出ルコトアルヲ恐レテ之ヲ禁遏セシナル可シ果シテ然ラハ大政云云ヲ禁スル



ト何ソ擇ハンヤ或説ニ大政ノ區域漠然ナリト言フト雖モ決シテ然  
ラス國稅ノ寬苛ニ論及スルハ則チ大政ニ渉ルナリ然レトモ荒歉ニ  
遭遇シ減稅ヲ乞願スル如キハ即チ大政ニ渉ルニ非ス是ヲ以テ視レ  
ハ其區域判然タリ區域既ニ判然タル故ニ之ヲ禁スルヲ得ルナリ即  
チ人身上ノ毀譽ニ渉ルヲ禁スルモ同一趣ナレハ大政ニ波及スルモ  
共ニ制遏セサル可ラストス

○八番 山口 尙芳

修正説ニ惜ヒ哉本官ハ同意スルコ能ハス其理由ハ本條  
ニ於テハ議員ハ十分討論ノ權ヲ有セリ討論ヲナスニハ敵手ナカル  
可ラス然レハ其論難攻撃スルヨリ勢ヒ人身上ノ褒貶毀譽ニ渉ラス  
トモ保チ難シ故ニ之ニ渉ルヲ得スノ一語ヲ掲ケテ警誡シタル者ナ  
リ前ニ充分トアルヲ以テ後チニ渉ルヲ得スト文章ヲ抑揚シテ其充

分ノ語弊ヲ防キタルナリ然ルニ大政得失ノ字ヲ插入スルハ唐突ニ  
シテ竹木相接シタル如キモノナリ是レ必ス原案第十七條ノ字ヲ割  
愛スルニ忍ヒサル迷心ノ未タ脱却セサルニ原因シタルナラン然レ  
トモ大政ノ得失ヲ無用トセハ褒貶毀譽ノ禁止モ亦タ無用ナリトノ  
説ハ稍ヤ其理アリ第三十三條ノ會議論說國ノ安寧ヲ害シ云云ハ曖  
昧ナルコナリ之レ必ス大政ノ得失ヲ議スルヲ言フナルヘシ然レハ  
之ヲ第三十四條中カ若シ否ラサルモ第四章開閉ノ部分ニ插入スレ  
ハ可ナラン試ニ思ヘ褒貶毀譽ハ犯則ナレハ之ヲ議場外ニ退去セシ  
ムルニ止ルノミ大政ノ得失ノ如キハ必ス中止閉會ニ關スルコナル  
ヘシ豈ニ慢言罵詈ノ細事ト并置ス可ケンヤ

○九番 河野 敏錄

各議員ノ駁論皆ナ其正鵠ニ中ラス本官ハ之ヲ至重ノ要



件トモ認メサレトモ亦タ必ス闕ク可ラサル者トス何則チ現今地方ノ景況ニ於テ府縣會ヲ興スモ必ス全國ノ大勢政治ノ本源ヨリ論究セサレハ如何トモ爲ス可ラスト誤認シテ論及スル者ナシトモ保ス可ラス若シ然ラハ此一語ヲ掲クレハ會議ノ成果ニ於テ幾分カ效功アルヲ信ス且ツ大政トハ漠然トシテ分界ナシトノ論ハ前日以來議場ニ紛々タリ其分界ヲ緻密ニ條折スルニ至ツテハ極メテ難事ナルヘシト雖モ其概畧ハ辨知シ易キモノナラン故ニ大政ノ得失ヲ插入スルヲ可トス又タ或ル議官ノ説ニ第四章中ニ插入ス可シ此條ニ插入ス可ラスト言ト雖モ人身ノ毀譽ニ渉ルハ必ス其敵手ノミニ限ルニ非ス他人ニ波及スルコアルヘキナリ大政云云ハ人身云云ト大徑庭アルニ非サレハ之ヲ竹木相接ストハ謂フ可ラス固ヨリ國ノ安寧

ヲ害スト同日ノ論ニ非ス大政ノ得失ヲ論及シタリトモ直チニ國ノ安寧ヲ害スル者ニ非サレハナリ

○六番 柳原前光

大政ノ得失云云ノ論ハ第二讀會ニ痛ク駁撃セラレ此議場ニハ跡ヲ絶シト思考セシニ豈ニ圖ンヤ再ヒ議場ニ現出シタルノミナラス許多ノ賛成者アラントハ己ムヲ得ス本官モ前説ヲ主張シテ一撃ヲ試ミサルヲ得ス府縣會議ノ權限ハ第一章ニ臚列シ纖悉遺サス此他議則ナリ開閉ナリ會議ノ典則綱羅シ盡セリ然レハ大政云云ハ無用ノ贅言ナリ修正主張ノ論者モ其大政ノ分界如何ニ至テハ明瞭ノ見解ヲ下シ得サルナリ且ツ本案ノ充分討論ノ權ヲ有ストハ嫌疑ヲ顧慮セス肝膈ヲ披瀝シテ討論シ毫モ遺憾ナキヲ要スルナリ若シ大政云云ト插入セハ謹慎者ハ必ス疑惑ヲ懷キ左顧右慮シ自己



ノ胸臆ヲ吐露スルコト能ハサルニ至ラン然レハ則チ徒ラニ大政ノ字  
面ヲ溺愛偏好スルニ過キスト謂フ可シ此ノ如キ望洋タルコトヲ法律  
ニ掲クルハ不可ナリ本案ニテ間然ナシ

○五番細川潤次郎

本案ヲ可トス修正ノ否ナルハ既ニ衆說ニ盡キタリ本  
官更ニ一步ヲ進メテ論センニ大政ノ得失云云ト掲載セハ必ス議員  
ハ首ニ恐レ尾ニ懼レ十分ノ發論ヲスル能ハス唯々諾々タルニ至ル  
可シ蓋シ此法案ハ分權ノ大主義ニシテ府縣會ハ即チ其主腦タルノ  
原則ナリ其原則ヲ擴張スルトキハ則チ人民ニ參政ノ權ヲ與ヘタル  
モノナリ之ヲ大ニシテ國會ナリ國會即チ國政ヲ議ス府縣會ハ一府  
縣内ノ事ヲ議ス是レ亦政事ヲ議スルナリ大政府モ府縣廳モ同一ニ  
シテ唯其大小ノ差異アルノミ然ラハ則チ之ニ參政ノ權ヲ與ヘタル者

ト謂ハサル可ラス既ニ其權ヲ與ヘ而テ其言論ヲ箝制シテ可ナラン  
ヤ府縣會ニテ議スル所ハ地方稅ヲ以テ施行スヘキ事件及ヒ徵收ノ  
方法ナリ是レ又政事ナラスヤ且地方稅ハ地租十分一以内トアルヲ  
議スルニ方テ國稅ノ百分ノ二歩五厘ニテハ之ヲ海外諸國ニ比例ス  
ルニ重額ナレトモ國法ナレハ之ヲ如何トモナス可ラス然レハ則チ十  
分一以内ナル者ヲ此ノ如キ方法ヲ以テ徵收ス可シト言フ如キモ亦  
タ大政ニ及フニ非ヤ又タ鄰府縣ノ警察ノ周備ナル既ニ此ノ如シ然  
ルニ本縣ハ猶ヲ此ノ如シ故ニ之レヲ擴張セント是レ亦タ大政ニ及  
フト謂フ可シ果シテ然ラハ此ノ如キ者ハ皆之ヲ犯則違法者トシ退  
去セシメサルヲ得ス既ニ地方稅ニ係ル事ヲ議スヘキ參政ノ權ヲ與  
ヘラレタルモ實際此ノ如ク掣肘箝制セハ殆ント發論スルコト能ハス



會議モ徒ラニ畫餅タランノミ歐洲ノ議員ハ發論ヨリ罰セラレ、  
 ナキノ憲法アリ支那ノ古昔ハ誹謗ノ木諫鼓ノ設ケアリ本邦ニ於テ  
 ハ言路ヲ洞開シ廣ク公議輿論ヲ取ルノ國是ナラスヤ然リト雖モ忌  
 諱ヲ憚ラス暴論抗議スルモ亦可ナルヤト言フニ決シテ否ラサルナ  
 リ本案第四章ニ之ヲ預防スルノ明文アリ以テ他人ノ權利ヲ妨害ス  
 ル者ヲ處分シ又タ第三十條ヲ以テ議事犯則ヲ處スル法ヲ示スナリ  
 且ツ人ノ發言ハ天賦固有ノ能力ニ由テ生スルモノナレハ言論ヲ以  
 テ他人ノ權利ヲ枉害スルコトナケレハ適意自由ニ發論スヘキナリ其  
 枉害ト言フハ何ソヤ即チ人身ノ毀譽國ノ安寧ナリ故ニ之ヲ禁遏ス  
 ルハ本條ト第四章ノ條款トニ盡タリ又タ何ソ之ヲ修正スルヲ用ン  
 ヤ

○議長 發議ノ盡タルヲ認メ七番ノ修正ニ同意ノ者ヲ起立セシム  
 起立者十人

○議長 全員ノ半數ナルヲ以テ職務條例第六條ニ依リ本案ヲ可トス  
 ル旨ヲ告ケ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第三十條 議場ヲ整理スルハ議長ノ職掌トス若シ規則ニ背キ議長  
 之ヲ制止シテ其命ニ順ハサル者アルトキハ議長ハ違法者トシテ  
 議場外ニ退去セシムルヲ得其強暴ニ涉ル者ハ警察官吏ノ處分ヲ  
 求ムルヲ得

○九番 河野敏謙 僅ニ字句ヲ修正シテ重複ヲ省カン規則ニ背キ云云違法  
 者トシテ云云トアリ規則ニ背ク者ハ則違法者ナリ故ニ(違法者ト



シテノ六字ヲ删除シ議長ハ之ヲ議場外ニ退去云云ト修正セハ簡明ナル可シ

○六番 柳原 賛成  
前光

○十六番 大給 賛成  
恒

○十五番 福羽 賛成  
美静

○三番 山尾 賛成  
麻三

○十一番 黒田 賛成  
清綱

○議長 九番ノ修正説ニ賛成者アルヲ以テ議場ノ問題トナス

○議長 發議ナキヲ認メ九番ノ修正ニ同意ノ者ヲ起立セシム  
起立者十七人

○議長 多數ヲ以テ九番ノ修正ニ決シタル旨ヲ告ケ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田 秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第四章 開閉

第三十一條 府縣會ハ毎年一度三月ニ於テ之ヲ開ク其開閉ハ府知

事縣令ヨリ之ヲ命シ會期ハ三十日以内トス但府知事縣令ハ會議

ノ衆議ヲ取りテ其日限ヲ伸ルコトヲ得ルト雖モ其事由ヲ直チニ内

務卿ニ報告ス可シ

○議長 發議ナキヲ以テ本案ニ同意ノ者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全員悉ク起立セシヲ以テ本案ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田 秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第三十二條 通常會期ノ外會議ニ附スヘキ事務アルトキ府知事縣



令ハ臨時會ヲ開クコトヲ得

但該會ヲ要スル事由ヲ直ニ内務卿ニ報告ス可シ

○議長 發議ナキヲ以テ本案ニ同意ノ者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第三十三條 會議ノ論說國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯ス

コアリト認ルトキハ府知事縣令ハ會議ヲ中止セシメ内務卿ニ具

狀シテ其指揮ヲ請フ可シ

○六番 柳原前光 僅ニ字句ノ修正ヲ欲ス本條ハ第三十四條ト同一ノ精神

ニシテ唯内務卿ト地方官トノ差異アルノミ故ニ三十四條ト參照シ

テ論說ノ字ヲ刪除シ(會議中國ノ安寧云云)ト改メ認ムルトキノト

キヲ(時)ニ改メハ前後通串シテ可ナラン

○十番 東久世通禧 賛成

○十五番 福羽美靜 賛成

○議長 六番ノ修正ハ賛成者五名ニ滿サルヲ以テ之ヲ廢棄シ本案ニ

決シタル旨ヲ告ケ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第三十四條 會議中國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコト

アリト認ムル時ハ内務卿ハ何レノ時ヲ問ハス閉會ヲ命シ又ハ議員

ノ解散ヲ命スルコトヲ得

○六番 柳原前光 前條ノ修正說ハ廢棄セラレタリ然ラハ之ヲ轉換シテ本



條ヲ修正セントス會議中ヲ會議ノ論說トシ認ムル時ノ時ノ字ヲトキト改メ前條ト同一ノ体裁トナランコト欲ス

○八番 山口 尙勞 之ヲ賛成ス其故ハ會議中ニテハ其意義泛然トシテ其何事タルヲ確知シ難シ國ノ安寧ヲ害スルモ法ヲ犯スモ皆ナ論說ニ起因スルナリ故ニ其論說ニ依リ内務卿ハ閉會ヲ命シ或ハ解散セシムルナラン然ルニ泛然會議中トノミニテハ何ノ作用タルヲ知ル可ラス故ニ前ノ修正說ニハ不同意ナレトモ本條ノ修正ニハ左袒シテ之ヲ賛成ス

○十番 東久世 通禧 賛成

○十五番 福羽 美靜 賛成

○十七番 山田 顯義 賛成

○十八番 補田 英世 賛成

○議長 六番ノ修正說ニ賛成者アルヲ以テ議場ノ問題トナス

○九番 河野 敏錄 別ニ修正說ヲ持ス故ニ六番ニ同意スル能ス其理由ハ國ノ安寧ヲ害スルト認メハ府知事縣令之ヲ中止セサルヘカラス故ニ法律又ハ規則ヲ犯スノ字ヲ刪除セサレハ不可ナリ國ノ安寧ヲ害スルハ必ス法律規則ヲ犯スヨリ起因スルモノニ止マラス又タ必ラス論說ニモ止マラス論說ヲ以テ人心ヲ攪動シ國安ニ關係スルハ不世出ノ雄辨家ト雖モ其機ニ乘スルニ非サレハ其效用ナシ國安ニ關係ルモノハ却テ暴舉動ノ如キニアルモノナリ本官ハ此ノ如キ持論アリ故ニ六番ニ同意セス

○六番 柳原 前光 九番ハ別ノ修正說ヲ提出セリ其精神ニ於テハ大ニ徑庭



アリ之ヲ辨セサルヲ得ス本官ハ本案ノ精神ヲ保全シ僅ニ字句ヲ修正シテ文章ヲ整頓ナラシムルノミ九番ノ説ニテハ國ノ安寧ヲ害スルハ法律規則ヲ犯スヨリ起因スルニ止マラスシテ却テ暴動ノ如キニアレハ本條ノ法律又ハ規則ヲ犯スノ字ヲ删除ス可シト言フト雖モ本案ノ會議中ト言フハ即チ議事ヲ爲ストキノコトヲ言フナリ然レハ九番ノ説ハ明瞭ニアラス本官ハ第三十三條ト同一ノ体裁ト爲サント欲スルノミ

○議長 發議ナキヲ以テ六番ノ條正説ニ同意ノ者ヲ起立セシム  
起立者六人

○議長 少數ナルヲ以テ六番ノ修正説ヲ廢棄シタリ

○九番 河野 敏兼 六番ノ修正説ハ廢棄セラレタレハ本官ノ修正説ヲ提出

セント欲ス會議中國ノ安寧ヲ害スル時ハ内務卿云云ト修正ス可シ何ントナレハ本案ノ如クナルキハ法律或ハ規則ヲ犯シタル者僅ニ兩三名ニ過キササルモ閉會又ハ解散ヲ命セサルヲ得ス甚タ謂レナキ事ナラスヤ若シ議員半數以上法律或ハ規則ヲ犯シタル時ト看做スヘキカ一府縣内ノ信憑ヲ得テ其名代人タル者豈輕忽此ノ如クナラシヤ故ニ法律云云ヲ删除ス可シ

○十六番 大給 恒 賛成

○一番 津田 眞道 賛成

○議長 九番ノ修正説ハ賛成者五名ニ滿タサレハ廢棄シ本案ニ決シ次條ニ移ラシム

○書記官 戸田 秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス



第三十五條 内務卿ヨリ解散ヲ命シタルトキハ更ニ議員ヲ改選ス

ヘシ

○議長 發議ナキヲ以テ本案ニ同意ノ者ヲ起立セシム

全員悉起立

○議長 全會一致本案ヲ可トシタル旨ヲ告ケ且第百一號議案ハ本日ニテ全ク決議シタルハ例ノ如ク院議ヲ摘録シテ上奏スヘキ筈ナレト内閣ヨリ急施ヲ要ストノ需求モアレハ委員ヲ設テ修正理由ノ質問ニ答ヘシメント言テ七番十五番二十二番ノ三議官ニ委員ヲ命シ且ツ來ル十四日ヲ以テ號外第二十五號議案ノ第二讀會ヲ開ク旨ヲ演述シ散會セシム

午後第四時三十五分開場

元老院會議筆記明治十一年五月十六日

○第百一號議案 地方官會議ニ於テ議定セシ 第三號第一讀會

議長 有栖川 熾仁

出席議員

- 一番 津田 眞道
- 四番 大久保一翁
- 五番 細川潤次郎
- 六番 柳原 前光
- 七番 佐野 常民
- 八番 山口 尙芳
- 十番 東久世通禧



- |     |       |
|-----|-------|
| 十一番 | 黒田 清綱 |
| 十二番 | 秋月 種樹 |
| 十四番 | 水本 成美 |
| 十五番 | 福羽 美靜 |
| 十六番 | 大給 恒  |
| 十八番 | 楠田 英世 |
| 十九番 | 陸奥 宗光 |
| 二十番 | 齋藤 利行 |
| 廿二番 | 中島 信行 |
| 廿三番 | 宍戸 璣  |
| 廿四番 | 津田 出  |

廿五番 岩下 方平

内閣委員番外 太政官大書記官松田 道之

午前第十時二十五分開場

○議長本日ハ第一百一號議案中ノ第三號議案ノ第一讀會ヲ開ク旨ヲ述  
フ

○書記官戸田秋成 左ノ條々ヲ朗讀ス  
第三號議案

第一條 従前府縣稅及民費ノ名ヲ以テ徵收セル府縣費區費ヲ改メ  
更ニ地方稅トシ府縣限リ徵收スヘキ者トス其目左ノ如シ但シ町  
村限リ及市街ノ區限リノ公費ハ其町村區内人民ノ協議ヲ以テ支  
辨スヘキモノトシ地方稅ノ限リニ在ラス



- 第一 地租五分一以内
- 第二 營業稅及雜種稅
- 第三 戶數割
- 第二條 營業稅雜種稅ノ種類及制限ハ別段ノ布告ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費目左ノ如シ  
但費目中從前國稅ヨリ支出スル金額ハ總テ舊ニ據ル
- 第一 警察費
- 第二 河港道路堤防橋梁建築修繕費
- 第三 府縣會議諸費
- 第四 流行病豫防費
- 第五 學校費

- 第六 郡區廳舍建築修繕費
- 第七 郡區吏員給料旅費及廳中諸費
- 第八 病院及救育所諸費
- 第九 浦役場及難破船諸費
- 第十 管内限リ諸達書及揭示諸費
- 第十一 勸業費
- 第四條 其年七月ヨリ翌年六月迄ヲ一周年度トナシ府知事縣令ハ其年二月迄ニ地方稅ヲ以テ支辨スベキ經費ノ豫算并地方稅徵收ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ其年五月ヲ以テ內務卿及大藏卿ニ報告スヘシ其府縣會議ヲ設置セル地方ハ其會議ヲ取り之ヲ決定シテ內務卿及大藏卿ニ報告スベシ



第五條 非常ノ費用ハ豫算ニ立ツルヲ得サル 別ニ賦課スルヲ得ル

ト雖モ其内務卿及大藏卿ニ報告シ會議ヲ取ルハ第四條ノ順序ニ

從フベシ其急施ヲ要スル事項ハ施行シテ後報告スヘシ

但シ報告期限ハ第七條ニ依ル

第六條 地方稅徵收ノ期限ハ府知事縣令適宜ニ之ヲ定ムヘシ

第七條 府知事縣令ハ毎年七月ニ至リ其一週年度間ノ出納ヲ計查

シ精算帳及計表ヲ製シテ内務卿及大藏卿ニ報告スヘク其府縣會

議ヲ設立セル地方ハ翌年通常會議ノ初メニ於テ報告シ及内務卿

大藏卿ニ報告スヘシ

○松田一番道之

從前地方ノ入費ハ甚不規則ニシテ民費アリ府縣稅ア

リ其府縣稅ナル者ハ知事令限り徵收スヘキ者ニシテ之ヲ何ニ用ユ

ルト謂ヘハ道路橋梁等ノ一般ノ公益ニ關スル者ニモ用ユト雖又知

事令ノ思考次第ニテ必シモ一般ノ公益ニ用ユト謂フヘカラス

府縣稅ノ名アリテ府縣稅ノ實ナキナリ其專ラ公益ニ關スル所ノ者

ハ所謂民費ナル者ヲ以テ之ヲ支辨セリ條理ヨリ論スルモ實際ヨリ

論スルモ共ニ其宜シキヲ得ザル者ナリ且其民費ナル者モ公益ニ關

スル者ヲ支辨スルトハ云ヘ非費目アルニ非ス故ニ詳細ニ之ヲ分拆

スルモハ國稅ニ屬スヘキ者アリ府縣稅ニ屬スヘキ者アリ又一已一

部ニ屬スヘキ者アリ概シテ之ヲ民費ト稱ス故ニ客年第二號公布ノ

民費ハ地租五分ノ一ニ超過スヘカラスト謂フモ實際ノ景況ハ五分

ノ一ニ超過スルノミナラス地租ニ課スルノ外人口ニ課シ或ハ戶數

ニ課シテ其法種々ナリ故ニ人民常ニ苦情ヲ抱テ之ヲ鳴ラスニ至ル



是費目ヲ一定シテ賦課ノ法ヲ正シクセサルヘカラサル所以ナリ這  
回ノ改正ハ其混同ヲ除テ純粹ニ皈セシムル者ナレハ從前要セシ所  
ノ額ハ一千六百萬圓ナレトモ此ノ如ク改正スルキハ一千零七十萬  
圓ノ額ニ下リテ要スルニ三割二分五厘餘ノ減額ヲ見ル此一點ニ就  
テモ改正ノ不可ナキヲ徵スルニ足ル且此民費ナル者モ改テ地方稅  
ト爲ス所以ノ者ハ從前民費ノ稱ハ法律ニテ定メシ者ニ非ス府縣ノ  
伺書面及指令文ヨリ成リ立チシ者ニ似タリ要スルニ地方公同ノ入  
費ニ充ツル所ノ者ナレハ即地方稅ト稱スルノ名實相正シキニ若カ  
ス勿論從前ノ有様ニテハ種々混合スルヲ以テ其名ヲ正スヲ得ス  
又之ヲ正スモ其實ナケレハ隨テ其益ナキナリ或ル說ニ稅ト稱スル  
キハ課スル者トナリ民費ト稱スルキハ自ラ支辨スル者トナルカ故

ニ矢張民費ト稱スルノ穩ナルニ若カストアレト民費ト稱スルモ稅  
ト稱スルモ人民ノ懷ロニ於テハ同一ノ計算ニ出テサレハ別ニ驚愕  
ヲ來スノ恐ナカルヘシ且稅ト稱シテ稅ヲ出スハ人民ノ義務ト謂フ  
ヨヲ少シモ早ク承知セシムルヲ可トスト謂テ如此改正セリ又或ル  
說ニ郡モ亦行政區ニシテ府縣ト直接ニ關係セサレハ別ニ郡費ヲ徵  
收シテ府縣稅ト區別スヘシト言ヘト今之ヲ地方稅ト纏メシ所以ハ  
抑郡ト謂ヘハ共有物モ之アリト雖社會位ノモノニシテ團結ノモノ  
ハ秣場ト雖モ惣テ町村ニ係ル然ラハ之ヲ纏メルヲ可トスト謂テ地  
方稅ト總稱セリ然ラスンハ郡稅ノ稱ヲ與サ、ルヲ得サルニ至ル餘  
リ瑣細ト謂フヘキナリ又或ル說ニ彼郡ノ堤防ハ此郡ノ關係スル所  
ニ非ス此郡ノ橋梁ハ彼郡ノ關係スル所ニ非スト謂者アラント是實



ニ地方税ノ性質ヲ知ラサル者ノ言ナリ此堤防彼堤防ト區別スヘキ者ニ非ス其隄防其橋梁ハ其地方ノ利害ヲ共ニスヘキ者ナリ猶國費ニ充ツルニ奥羽ノ租税モアレハ九州ノ租税モアルカ如キナリ且一町村ハ各自獨立ノ者ナレハ其費用ハ各自ニ支辨スヘシト雖其數町村ニ跨ルノ費用ハ之ヲ一府縣ニ纏メルノ便ナルニ若カス是亦瑣細ノ區別ヲ爲サスシテ一地方税トナスノ原因ナリト

○五番 細川潤次郎

本官ハ第一號議案ニ對シタル如ク亦本議案ヲ否トス其熱心ニ至テハ第一號議案ニ比スレハ更ニ甚シトス何トナレハ其關係スル所口甚タ大ナリ元來人民ノ休養生息ヲ主トスルヨリシテ言ヘハ第一號ニ比スレハ第三號ハ眞ニ甚シキ關係ナリトス本官豈辨ヲ好マンヤ天賦ノ腦力ト自由發論ノ權アル官職トニ對シ大ヒニ

之ヲ論スルハ亦止ムヲ得サルナリ其大意ハ紛々變更ヲ好マサルニアリ元來地方ハ即チ府縣々々ハ即チ地方々々ノ外府縣ナク府縣ノ外地方ナキナリ此レ改メサルモ可ナリ民費ハ即チ民ノ爲メ費ス所口亦改メサルモ可ナリ況ンヤ委員ノ説明ノ如ク税ト云ヘハ課スルモノトナリ費ト云ヘハ自カラ出スモノトナルト爲サハ今改メテ之ヲ税ト云ハ、頗ル人民ノ腦裏ニ感觸ス可シ歐米ノ如ク税ハ會議ノ決ニ依テ出スト爲サハ費ト爲スモ税ト爲スモ異ナルコトナカル可シト雖モ我人民ノ如キハ感觸ヲ來スヤ必セリ又委員ノ説明ニハ地方ニ因リ區々ノ方法ヲ以テ税ヲ課スト此レ或ハ然ラン然ラハ其混同スルモノノミヲ沙汰シ之ヲ改正シテ止ムヘシ且夫地方ニ因リ區々ノ方法アルハ固ヨリ其理ナリ天下ノ廣キ人民ノ衆キ其利害相因ル



一皆同シカラス山川ノ形勢ニ至テハ一府一縣一町一村皆異ナラサ  
 ルナシ又人民ニ貧富ノ差アリ然ラハ其所謂區々ノ方法ハ實ニ止ム  
 コヲ得サルノ理ナリ物ノ齊シカラサルハ物ノ情ナリノ古語ヲ聞ク  
 コ久シ此レ嫌フ可キニアラスシテ却テ喜フ可キモノナリトス元ト  
 第二號議案ヲ可ナリト爲スハ本案ノ如キ事項ヲ決スルニ會議ヲ以  
 テスルヲ以テナリ其時ニ至テハ却テ更ニ區々ノ方法ヲ生ス可キモ  
 亦知ル可カラス假令國會アリトモ町村ノ會議ニ關セサルヲ以テ終  
 ニ一統スルヲ能ハサル可キナリ其區々タル方法中改正セサルヲ得  
 サル重キモノ大ナルモノヲ撰テ之ヲ爲ス可キナリ且地租五分ノ一  
 以内ナルモノヲ以テ東京ノ區入費ノ如キ位置ニ費用スルヲト爲ス  
 ハ若シ習慣ナラシメハ可ナリト爲スモ今新々ニ之ヲ設クルハ甚々

難カル可シ地方稅ナル者ハ必ス地方ノ事ニ費用シ一町一村ノ公費  
 ハ從來課出スル所ノ地租五分ノ一以内ノ外ト爲スモハ更ニ目下  
 ニ課スル以外ノ增加費用ヲ要セサルヲ得サルナリ此計算タルヤ未  
 タ其記録ヲ一閱セス其詳ナル得テ知ル可カラスト雖モ實ニ思想ノ  
 外ニ出テ人ヲシテ或ハ其算ノ錯リニ非ル乎ノ念ヲ懷カシムルナリ  
 又戸數割ナル者ハ法律上未タ曾テ見サル所ニシテ本官亦一人民  
 ナリ東京ニ於テモ未タ此ノ如キ費用ヲ課出セシコトヲ覺ヘス抑々收  
 斂ヲ爲スハ古來大ニ戒ムル所トナリ況ンヤ去歲民費賦課ノ儀正租  
 五分ノ一ヨリ超過ス可カラスノ布告アリ本官ノ此議案ニ同意セサ  
 ル所以ノ者ハ一ハ紛々變更シテ腦裏ヲ攪亂スルヲ嫌ヒ一ハ稅額ヲ  
 増加シテ財產ニ影響ヲ生スルヲ恐ル、ニ在ルナリ



○十九番陸奥宗光 本案ノ大旨ハ可ナリト雖之ヲ可トスル所以ノ説ニ至テハ大ニ内閣委員ノ説明スル所ニ異ナルヲ以テ隨テ本案ヲ修正セザルヲ得ズ予ガ本案ノ大旨ヲ是視スルハ恰モ第一號議案ヲ可トスルノ精神ニ同シクシテ唯今日一回ノ改定ヲ以テ永ク後日ノ變更ヲ絶ントスルニ外ナラズ而シテ内閣委員ノ説明ヲ非トシテ大ニ修正ヲ加フ可シトスルハ本案ニ於テ町村市街限リノ公費ヲ以テ地方税ノ外ニ置クコト即チ是レナリ夫レ町村市街ノ小ナル之ヲ府縣ノ大ナルニ同視ス可ラズト雖亦町村市街ヲ以テ一家ノ小ニ比シ其獨立自治ニ委シテ敢テ其費用ヲ地方税ヨリ支給セサルニ至テハ町村人ノ疾苦甚キ者アラントス且町村區ヲ以テ全ク一私家ノ如キ看ヲ做スハ公費ノ字面ト撞着セリ其レ一家ノ費用ハ出入唯主人ノ意ニ任ス

ト雖町村ノ費用ハ町村人之ヲ出スヲ好マザルモ亦之ヲ出サマルニ止ム能ハズ而シテ人民地方税ヲ出スガ上ニ又町村費ヲ別ニ出ストセバ是レ其費用ヲ重ヌルナリ内閣委員ハ通國ニ於テ五百三十萬圓ノ費用ヲ減ズト云フト雖本官ハ此ヲ奇異ノ算定トセザルヲ得ス是レ蓋シ昨年聖詔ノ減租以前ノ額ヲ以テ減租以後ノ額ニ比シテ此ノ數ヲ得タル者ト信ズ果シテ然ラバ其減額ハ聖詔ノカニシテ毫モ此議案ニ關係ナキ者ナリ若シ又町村ノ費用ヲ除キテ唯地方税ヲ計算シ此數ヲ得タルトセバ其減額ハ唯地方税ノ計算ヲ出テ、町村費用ニ入ル者ニシテ而シテ之ヲ出ス所ノ人民ニ於テ毫モ減費ノ實ナキ者ナリ又本案地方税ノ目三箇アリト雖實際ヲ考フルニ地租其最大部分ヲ占メテ他二箇ノ目ハ堆之レカ補ヒヲ爲スニ過ギズ而シテ府



縣ノ事業甚ダ多クシテ其稅決シテ餘裕ナキヲ以テ府知事縣令ハ其收額ノ極度迄ハ之ヲ取立ルナルベシ然ラハ五分一以内ト云フモ大抵五分一迄ヲ徵スルナラン而シテ又町村費用ヲ別途ニ出スニ於テハ人民ノ困苦果シテ如何ゾヤ又唯費用減少ノ實ヲ舉ルヲ以テ目的トセバ其租稅ノ名稱ヲ變更スルニ及バズ唯事務ヲ減少シテ費用ヲ省クヲ以テ足レリトス然ラザレハ町村費用ヲ地方稅ノ中ヨリ支給シテ別ニ之ヲ出サシム可ラス本案ノ如ク町村費用ヲ人民ニ出サシメテ地方稅ノ額ヲ減シタルハ其實額毫モ減少セザルナリ故ニ本官ハ町村費用ヲ地方稅ヨリ支給シ戸長モ亦郡長ノ如ク官給ヲ附與シテ民力ヲ休養スルノ實ヲ舉ントス是レ本案ヲ修正セントスルノ大意ナリ其詳ナルハ之ヲ第二讀會ニ陳セントス

○松田 一番道之

五番十九番ノ說ニ向テ答辨セン五番ノ言ニ曰變更ヲ

事トシテ徒ラニ民心ヲ動カスハ非ナリト嗚呼是レ何ノ言ゾヤ之ヲ變更スルハ今日ニ於テ己ムヲ得ザルニ出ヅ若シ變更スルヲ要セザルノ情態ナランニハ豈ニ此舉ヲ爲サンヤ必ズ變更ヲ要スルノ日ニシテ之ヲ爲サマルハ苟且ト言ハザル可ラズ五番又言フ民費ハ幾分ノ自由アリ義務ニアラズト是レ實際ヲ知ラズ又法律ヲ誤解スル者ト云フ可シ夫レ民費ヲ出サマル者アレバ之ヲ租稅不納者トナシテ其財產ヲ官沒スルハ現今ノ制ナリ若シ民費ヲシテ自由ナラシメバ豈此ノ如キ制アラシヤ以テ其民費ノ名稱實際ニ適セズシテ自由ノ者ニアラザルヲ徵スベシ又五番及ビ十九番ハ町村入費ヲ地方稅ノ外ニ置クヲ非トセリト雖之ヲ混ジテ一トナシタルハ從來不當ノ事



ニシテ之ヲ別ツテ兩物トナスハ最モ其當ヲ得タル者ナリ夫市街點燈ノ瓦斯ノ如キ之ヲ地方稅ヨリ支出スルハ却テ紛冗ニシテ疆界ヲ亂ル者トセザルヲ得ズ既ニ第二號議案ニ定メタル如ク府縣會ハ町村ノ費用ニ關涉スルコトナシ然ラバ市ニ屬シ村ニ係ハルノ費用ヲ府縣會ニ於テ議ス可ラズ既ニ之ヲ議ス可ラズンバ其費用モ亦地方稅ヨリ支給ス可ラザルノ義知ル可キナリ五番又言フ徵收ノ方法各地區々ナルハ憂フ可キニアラズ却テ喜ブ可シト是モ亦大ナル誤見ト云フベシ現ニ地方租稅徵收ノ方法一定セザルガ爲メニ或ル縣ニ於テハ一物ニ二三種ノ稅ヲ課スル者アリ其不便甚ダ多クシテ一々論列ス可ラズ豈患フ可キノ甚キニアラズヤ又十九番ハ五百三十萬圓ノ減額ヲ以テ昨年一月公布前ト其以後トヲ比較シタルナラント論

ズレト是レ決シテ然ルニアラズ公布ニ所謂民費ハ正租五分ノ一ヨリ超過ス可ラズトハ全ク此ノ算用ニ關係ナキ者ナリ何ントナレバ公布ニ云々シタル制限ハ全ク明治六年中地租改正ノ令ニ正租三分一迄ニ制限シタルト同一ノ精神ナリ其三分ノ一五分ノ一トハ唯地租ノ上ニ就テ之ヲ制限シタルノミニテ之ヲ其他ニ賦課スルハ數種ノ目アリ小間割戶籍割人口割等皆現ニ行ハル、ニアラズヤ而シテ番外一番ガ陳述セル減額ハ特ニ地租ニ關シテ減ズト云フニアラズ總稅ノ上ニ就テ減ズルト説明セルナリ然ラバ其昨年一月ノ布令前後ニ關シテ比較セシニアラザルヲ覺ルニ足ラントス且十九番ハ一町村ヲ一個人ト同視ス可ラザル旨ヲ說クト雖是レ深ク一個人ノ文字ニ拘泥シテ此疑ヲ起スナリ其説明書ニ一個人云云ト載スルハ政



府町村ノ事項ニ關涉セザルヲ恰モ一家ノ事項ニ關涉セザルガ如キ  
 ヲ云フノミ決シテ町村ト一家トヲ同一視スルノ義ニアラズ且説明  
 書ハ法律草案ニアラズ故ニ其文字ニ就テ一々議ス可ラズシテ本案  
 ヲ辨明スルハ必ス逐一説明書ノ如キヲ要トセス又五分一迄ハ府知  
 事縣令之ヲ費スト云フト雖其費途一々理由アリテ浪費スルニアラ  
 ズ且ツ町村費ト地方税ヲ分ツガ爲メニ新タニ費用ヲ増加スルヲ決  
 シテ無シ其他ノ事故ヨリシテ増加ヲ爲スハ固ヨリ本案ノ關スル所  
 ニアラザルナリ

## ○十九番

陸奥  
宗光

昨年一月布令以來未タ政表ノ出タルヲ見ズ八年ノ表  
 ニヨレバ約子内閣委員減額云云ニ中ルヲ以テ前論ノ疑問ヲ容レタ  
 ルナリ獨リ怪ム所ハ委員ハ何ニ由テ五百三十萬圓ノ減額ヲ計算シ

タルヤ之ヲ知ル能ハザルヲ以テ深ク信ヲ此計算ニ置ク能ワス且委  
 員ハ人民其町村内ニ於テ支辨スルノ費用ヲ算入セリト是レ最モ怪  
 ムニ堪ヘタリ既ニ人民ノ支辨ト云フ恰モ是レ一個人ノ財計ヲ他人  
 ヲリ測算スル能ハザルガ如ク其多寡豫メ知ル可キニアラズ知ラズ  
 内閣委員何ヲ基礎トシ支辨ノ費用ヲ計算シ得タル乎且昨年一月布  
 令五分一ニ超過ス可ラズトノ制限ハ明治六年地租改正條例ニ三分  
 一云々ト載スル者ニ其精神ヲ同フスト説明スレモ是レ理論ノ一偏  
 ニ屬シテ實際ヲ知ル者ニアラズ何ントナレバ東京ノ小間割大坂ノ  
 軒割横濱神戸ノ五分銀ノ如キ其目數多ナリト雖モ畢竟地租ヨリ出  
 ス所ノ補助ニ過ズ實際地面ヨリ出ル者十分ノ七ニ居レリ而シテ地  
 方ノ状態ヲ見ルニ茅屋ニ家税ヲ課ス可ラズ釜鍋ニ財産税ヲ賦ス可



ラズ地面ノ外又課ス可キ者ヲ見ズンバ其町村費ト雖亦之ヲ地面ヨリ出スノ外ナカルベシ既ニ十分七ノ重キヲ負ヒ又町村費ヲ出サマルヲ得ズンバ其實際ノ困苦想フ可キナリ且地方税ノ名稱アル者ハ府縣會ニ議定スルヲ以テ町村費ニ支給ス可ラズト説明スト雖其地方税ノ名稱ヲ定メ其制限ヲ立ル者ハ誰ゾヤ此ノ如ク自ラ名稱ヲ立テ其名稱ニ因テ町村費ニ支給スル能ワズト爲ス此ノ手段ヲ用非ハ何事カ不便利ナラザル者アラシヤ故ニ地方税ノ名稱ノ爲ニ此ノ如キ性質ヲ生ゼバ其名稱ヲ更メテ可ナリ且説明書ヲ見ルニ用惡水等ノ事項大抵私事ニ屬セズシテ公眾ノ務ニ係レリ且ツ夫戸長ノ職務二十ヶ條モ大抵共同ノ事務ニアラザルナシ此共同ノ事務ヲ執行スル戸長ノ給料其事務扱所其附屬ノ人ニ支給スル費用ハ地方税ヨリ

出ス可ラズト云フノ理ナカルベシ且内閣委員ハ十九番ノ前論中府知事縣令ハ地方税ヲ浪費スト説キタル旨ヲ論ズレト本官ハ決シテ浪費スト云ハサルナリ今日ノ現状諸事皆不十分ナリ道路ノ一例ニ就テ之ヲ言フモ全國到所道路完好ナリト云フ可シヤ既ニ已ニ完カラズ地方官ハ其見込ヲ以テ之レニ着手セントス是レ當然ノ職務ナリト雖如何セン一事ヲ爲スニハ必ず相當ノ費用ナカル可ラズ故ニ其權内ニ在ル所ノ地租五分一迄ニ地方税ヲ徴收スルハ決シテ免レザル所ナルベシ内閣委員又其不足ハ他ノ物件ニ課シテ之ヲ填補スト云フト雖既ニ前段ニ説述スルガ如ク東京大坂其他僅々ノ開港場ヲ除クノ外決シテ課税ス可キノ物件ナシ故ニ實際ニ於テ之ヲ地面ヨリ徴スルノ外術ナキヲ辨論ヲ竣ズシテ明カナリ故ニ地方税ノ中



ヨリ町村費用ヲ支給スルニアラサレバ地方税ノ制限ヲ改メテ其十分一位イニ減少シテ人民ノ爲メ餘地ヲ遺サ、ル可ラザルナリ

○七番佐野常民

本官ハ十九番ノ説ノ如ク本案ノ大意ヲ可トシ疑點ノアル所モ同一ナリトス過刻委員ノ説明ハ自家撞着ト云フ可キノミ政府ノ信任シタル地方官ニシテ人民ノ膏血ヲ濫用浪費スルハ萬々ナキ筈ナリ然ルニ委員ノ説ニハ從前費用遣拂ノ不規則ナルヨリ其長官ノ意想ニ委セタレハ費用モ亦タ從テ多キヲ要スルニ至レリト云ヘリ若シ果シテ然ラハ行政官ノ失策ト言サルヲ得ス十九番ノ説ノ如ク目今ノ道路橋梁其他諸般之レヲ外國ニ比スレハ眞ニ見ルニ堪ヘサル者アレトモ其民力ノ奈何ヲ量ツテ之ヲナサ、ル可ラス然レハ之レカ制限ヲ立サルヲ得ザルナリ又町村ヲ行政區外ニ引放シ費

用ハ地方税ノ限ニ非ストスルハ政略ノ點ヨリ見テモ費用ノ點ヨリ見テモ其理由ヲ見出サ、ルナリ設シ地方税ヲ以テ支辨セストスレハ或ハ然ラン歟然リト雖正一事一工モ地方ノ事務ニ非ルモノナシ道路ノ如キ用惡水ノ如キ皆其共同公益ナル者ナリ其共同公益ナル者ニハ官ヨリ之ヲナサ、ルヲ得サル事務モアルヘシ然ルニ町村ハ獨立ノモノナレハ更ニ顧スト言テ可ナランカ決シテ然ラサルナリ町村ハ一個人ト異ナリ一町村ハ一町村ノ公共利害アリ一郡一縣ト何ソ異ランヤ戸長ノ勤務ノ如キモ皆行政上ノコニシテ一人一己ノ私事ニ非ス然ルニ其費用ハ地方税ノ限リニ非ストスルハ抑何等ノ理ナルヤ政略上ニテモ甚不可ナリ町村ハ獨立自治ノ者ナレハ其限ニ非スト云ヲ口實トスルハ畢竟其名義ヲ異ニスル迄ニテ實際ノ費



用ハ甚シキ増加ニ至ルヘシ夫ノ所謂自治ノ精神ヲ爲ス者ハ國會州  
會邑會等ヲ設立シ其議決ヲ以テ事ヲナシ人々奮發心ヲ喚起セシム  
ルヲ言フナリ是レ本官ノ町村ヲ行政區外ニ見放スヘカラストスル  
所以ナリ費用ノ如キモ別ニ意見ノアルアリ故ニ大意ヲ可ナリトシ  
テ第二讀會ニ於テ修正案ヲ提出ス可シト

○八番 山口 尙勞

大旨ハ可ナリ其之ヲ可トスルハ町村ノ費用ハ町村人ノ  
共議ニ定ムルヲ即チ是レナリ蓋シ舊時ノ慣習町村ノ事ハ町村ノ共  
議ニ成リタルニ維新ノ制度此舊慣ヲ破レリ今之ヲ復スルハ甚ダ可  
ナリトス且出ルヲ計テ入ルヲ定ムルハ地方町村至當ノ財計ト云ハ  
ザル可ラス現ニ新約克等ノ如キ一千萬圓二千萬圓ノ負債ヲ興スヲ  
得ルハ人民ノ協議ヲ以テ支辨スルヲ得ルヲ以テナリ吾邦ノ現狀ハ

此ノ如ク負債ヲ興スヲ得スト雖モ協議支辨ノ道ノ開進スルハ實  
ニ人民ノ幸福ト謂フヘシ各條ニ至テハ修正セサルヘカラスト雖本  
案ノ大意ニ於テハ同意ナリト

○番外一番 松田 道之

八番ノ說ハ番外一番ニ於テ甚タ満足セリ仍テ衆議  
官ノ論ニ誤謬ヲ來タス根元ヲ少シク辨ス可シ町村公費ハ一家ノ費  
用ト看ルト云フトモ一身一己ノ費用ナリト云フニアラス公同ノ費  
用ナリト云フニ過キス故ニ若シ之ヲ地方稅ニ課ス可シト爲サハ府  
縣會之ヲ議ス可シ然ラハ其事情ニ踈ナル知ル可シ必スヤ之ヲ町村  
ノ協議ニ付セサル可カラス若シ之ヲ府縣ニテ辨ス可シト爲サハ地  
方稅外更ニ町村費ヲ課セサル可カラス之ヲ町村ニ委セサル可カラ  
スト爲スハ之カ爲メナリ既ニ五番十九番ノ論ノ如ク正租五分ノ一



ニテ全ク之ヲ辨スルコ能ハス又八番ノ如ク府縣債ヲ起スコモ亦爲  
 ス可カラス然ラハ町村自カラ其費ニ應スルノ數ヲ協議シテ之ヲ出  
 ス可キナリ町村ノ協議ハ町村ノ費用ヲ辨シ府縣ノ會議ハ府縣ノ費  
 用ヲ辨スルト爲スハ最モ便宜ナリト説明セシナリ又七番ノ論ニ前  
 後ノ説明撞着セリト云フハ誤リナリ元ト過去ヲ擧テ將來ヲ徵セシ  
 ニ過キス其意前日ハ規則ナシト雖也後來本案ニ依ルトキハ萬憂フ  
 ル所ロナシト云フノミ更ニ衆議官ニ向ツテ辨スル所ロアリ十九番  
 ノ論ノ如ク千六百萬圓ノ計算ハ八年ノ計算ニ依テ説明セシナリ

○六番柳原前光 本日第三號議案第一讀會既ニ訖ルノ期ニ臨ミ建議スル  
 アラントス該案地方官會議ニ附セラレ議定ノ後本院ニ下附セラル  
 尙本院會議ニ於テ過日來衆議官ノ發論ヲ聞クニ修正ノ議多キニ居

ル故ニ第二讀會ノ前ニ方ツテ先ツ委員ヲ設ケ本案ヲ附托センコトヲ  
 冀望ス

○十五番福羽美靜 六番ノ議ヲ賛成ス該案ハ最モ重大ノ事件タレハ委員  
 ヲ設ケ精密ニ取調サルヘカラス是レ即チ六番ノ議ヲ賛成スル所以  
 ナリ

○廿二番中島信行 予モ亦六番ノ議ヲ賛成セント欲スト雖也六番ノ建議  
 ハ本日第一讀會ノ議案ノミヲ指スカ或ハ第一號第二號ヲ併セテ議  
 案ノ全部ヲ附托セント欲スルカ明瞭ナランコトヲ欲スルナリ

○六番柳原前光 勿論第一號第二號第三號ヲ併セ全部ヲ附托セント欲ス  
 ルナリ

○十九番陸奥宗光 六番ノ議ヲ賛成ス



○廿二番中島 信行 全部附托トスレハ之ヲ賛成ス

○五番細川 潤 次郎 既ニ第一號第三號議案ハ廢棄スルノ議ヲ發シタレト

本官可トスル所ロノ第二號議案ヲ連帶スルヲ以テ予モ亦同議ナリ

○議長 六番ノ建議ヲ以テ同意ノ議官ヲ起立セシム

全員悉ク起立ス

○議長 全會一致ナルヲ以テ議案ノ全部ヲ附托スル旨ヲ述ヘ六番柳 原

前七番 佐野 常民 廿二番中島 信行ヲ以テ委員トシ散會セシム

午後第一時十分閉場

元老院會議筆記明治十一年五月廿八日

○第一百一號議案地方官會議ニ於テ議定セシ 第一號第二號第三號議案 第三號第二讀會

議長陸奥 宗光 代理

出席議員

- 一番 津田 眞道
- 四番 大久保一翁
- 五番 細川潤次郎
- 七番 佐野 常民
- 八番 山口 尙芳
- 十番 東久世通禧
- 十二番 秋月 種樹



十三番 前島 密

十五番 福羽 美靜

十七番 山田 顯義

十八番 楠田 英世

二十一番 田中不二磨

二十二番 中島 信行

内閣委員番外一番 太政官大書記官松田 道之

午前第十時二十五分開場

○議長 本日議長不參ニ依リ代理スル旨ト第百一號議案中ノ第三號ノ第二讀會ヲ開クヲ演述ス

○十五番福羽美靜 議案朗讀ノ前ニ於テ建議セント欲ス本案ハ第一讀會

ノトキ既ニ議案ヲ廢棄セント論セシ議官モアレハ先ツ本案大旨ノ可否ヲ決センコトヲ望ム賛成ヲ得ハ幸甚ナリ

○七番佐野常民 十五番ノ建議ヲ賛成ス

○議長 十五番ノ建議ニ七番賛成シタレハ之ヲ議場ノ問題ト爲シ十五番ノ建議ニ同意ノ者ハ起立ス可シト命ス

起立者十二人

○議長 十五番ノ建議ニ同意多數ナル旨ヲ告ク

○五番細川潤次郎 本官ハ第一讀會ニ於テ廢棄セント欲スル大意ヲ述タリ尙ヲ再ヒ之レヲ詳陳セン本案ヲ廢棄ス可シトスル理由ハ第一號ト同シク徒ラニ紛々變更スルヲ不可トス是レ其一ナリ而テ町村限リノ公費ハ其町村人民ノ協議ヲ以テ支辨ス可シ地方税ノ限リニ非



四  
ストシテ一般ノ法律ニモナキ戸數割ヲ稅目トナス方今休養生息ノ  
聖意ニ背クト言サル可ラス是レ其二ナリ徒ヲニ紛々變更ヲ好マサ  
ル精神ハ第一號ニ對シテ專ラ述フヘキコナレトモ其精神ヨリスレ  
ハ此議案モ廢棄ス可シト論及セサルヲ得ス委員ノ辨明ニ政府豈敢  
テ紛々變更ヲ好マン乎然レトモ行ハザル可カラサルノ時機ニ際シ  
テハ已ムヲ得ス變更セサルヲ得サルナリト其言一理ナキニ非ス然  
レモ其變更ニツイテハ幾多ノ費用ヲ要セサルヲ得ス然レハ音ニ變  
更ノミナラス其費用ノ一點ニツイテモ亦論セサル可ラサルナリ昨  
十年第二號ノ布告ニ民費ハ地租五分ノ一ニ超過ス可ラスト此時ニ  
方テハ事ヲ省キ用ヲ節シ其限制ヨリ超過セシム可カラス然レモ實  
際ノ景況ハ本官モ其然ラサルヲ知ル付テハ本案ハ第一號議案ノ如

ク舊貫ヲ墨守シテ可ナリト謂ニ非ス唯其舊貫ヲ存シ稍之ヲ變通セ  
ハ可ナラント謂フニ在ルノミ然レトモ五分一ノ限制ハ決シテ消滅  
セシム可ラス若シ此ノ限制法會議ノ決ニ出シモノナレハ或ハ後年  
ニ至リ會議ノ決ニ依テ之ヲ更改スルモ不可ナシト雖モ休養生息ノ  
聖旨ニ出シモノナレハ之ヲ消滅セシメテ信ヲ民ニ失フハ甚タ不可  
ナリ故ニ已ムヲ得サル事故アリ其限制ヨリ超過セサルヲ得サル者  
ハ之レヲ會議ニ附シ之ヲ可トセハ行ヒ否トスレハ已マンノミ付テ  
ハ府縣會ハ國會ヨリ小ナリト雖モ邑會ヨリ大ナレハ區會或ハ町村  
會ヲ設立セサレハ府縣會ハ孤立ノ狀ヲ現ハサン故ニ本官ノ意見ニ  
テハ府縣會ヲ設立スルノトキニ方レハ併セテ町村會或ハ區會ヲ設  
立セシム可シ是則チ彼ノ州會ノ下ニ邑會アルカ如シ議者或ハ謂ン



儼然タル會議ノ體裁ヲ具ヘテ之ヲ開カントスレハ必ス許多ノ入費  
ヲ要ス可シト本官ハ其此ノ如キヲ欲セサルナリ既ニ九年第三百十  
號ヲ以テ各區町村金穀公借共有物取扱土木起功規則ノ發令アリ此  
事タル大ニ議會ノ性質ヲ備ヘリ故ニ之ヲ擴充シテ彼ノ邑會ノ如キ  
者ヲ爲シ町村及區ノ公費ハ其公議ノ協同ヲ以テ徵收支辨スル者ト  
セハ假令充分ノ地位ニ至ラサルモ不動産所有者ノ總代集會ノ許諾  
ヲ得テ以テ行否ヲ決スレハ漸次純然タル邑會トナラン是即チ所謂  
變通ノ道ナリ夫レ此ノ如ク簡易輕便ニシテ之ヲ現況ニ徵スルニ費  
用ヲ要セス人民騷擾ノ憂ナク邑會州會ト聯絡ヲ善クシ遂ニ國會ヲ  
興スノ地位ニ至ラン是上下ノ鴻益ト謂フヘシ然ルニ今突然從前民  
費ノ名目ヲ以テセシモノモ悉皆地方稅トナシ之ニ加フルニ戶數割

ナル稅目ヲ設テ府縣ニ徵收シ而テ町村ノ公費ハ其町村ノ利害ニ適  
切ナル公費ナレハ協議ニテ之レヲ支辨ス可シト謂テ名ヲ分權ニ假  
ルト雖モ眞ノ分權ハ此ノ如キ者ニハ非ル可シ蓋シ戶數割ナル者ハ  
或ル一地方ノ慣習ニテ協議上ヨリ成タル適宜法ナラン其レヲ以テ  
一般ノ法則トナシ而シテ其賦額ノ制限ヲ立テス人民腦裡ノ感覺如  
何ソヤ意外ノ騷擾ヲ現出スルニ至ラン且本案ノ意タル町村ハ獨立  
自治ニ任スト云フト雖モ是分權ヲ名トシテ其實ハ之ヲ放棄スルナ  
リ其故ハ海外諸國ノ例ヲ按スルニ邑稅モ亦其目ヲ立テ若干ヨリ多  
カラス若干ヨリ少カラスト其制限ヲ爲ス文明國尙且ツ然リ況ンヤ  
我邦ノ如キ數百年來封建制度ノ下ニ慣レシ人民ヲヤ干涉ハ固ヨリ  
政治ノ忌ム所ナレト人民ノ現況ニ就テ之ヲ視ルルハ此ノ如ク一朝



解放シテ汝獨立自治ス可シ政府ハ更ニ干涉セスト言フハ之ヲ一足  
 飛ト謂フヘキナリ果シテ此ノ如クナラハ其弊ヤ其町村區内ニ於テ  
 施行スヘキ事件モ彼必ス拋棄スルニ至ラン是レ彼ノ自ラ拋棄スル  
 ニ非ス政府分權ヲ名トシテ其實ハ之ヲ放棄スル者ト謂フヘキナリ  
 故ニ本官ハ本案ニ對シテハ第一號議案ニ對シテ論セシ如ク之ヲ廢  
 棄セント欲スルナリト

○松田一番外道之 五番ノ憂慮スル所ハ本案既ニ之ヲ救護スルノ法ヲ示  
 ス五番ハ之ヲ解シ得サル者ニ似タリ且恠ム前會ノ説ト本日ノ説ト  
 ハ其精神ヲ異ニスル者ノ如シ何ントナレハ第一號ハ紛々變更スル  
 ニ過キス故ニ之ヲ廢棄スヘシト而シテ本案ニ於テハ則チ然ラス舊  
 貫ノ如キモ亦タ不可ナレハ之レヲ變通ス可シト謂フ其説ニ地方稅

ノ名稱ハ不可ナリ從前ノ如ク民費トスルヲ可トス而シテ町村會即  
 チ海外諸國ノ邑會ノ如キ者ヲ起シ正租五分一ノ不足ヲ補助スルヲ  
 議決セシム可シト是レ本案ノ所謂協議支辨ト何ソ擇ハンヤ特ニ邑  
 會町村會ノ名稱ナキノミ然ラハ則五番ノ憂慮スル所ハ既ニ本案ニ  
 之ヲ救護シタルナリ又云フ町村ヲ獨立自治ノモノトナシ其事務ヲ  
 委任スルモ數百年來壓制ノ下ニ立チ自治ノ精神ナキ卑屈ノ人民ナ  
 レハ政府幾分カ之レニ干涉セサルヲ得スト之ヲ町村會ヲ設立セハ  
 則チ可ナラントノ言ニ對スルモ自家撞着ト謂フ可キノミ又タ五  
 番ニハ地租五分一云云ヲ誤解セシニ似タリ抑此ノ布告タルヤ地  
 方凡百ノ經費ハ總テ五分一ヲ以テ支辨シ之ヨリ超過ス可カラスト  
 謂フニアラス從來地所ニ賦課セシ所ノ民費ノ制限ナリ此外實際ノ



十  
狀況ニ於テハ各色ノ名目ヲ以テ徵收スルコトアルナリ然ルニ五番ハ  
民費ハ地租五分一ヨリ超過ス可キニ非ス然ルヲ新奇ナル戸數割等  
モ税目ニ入ル、ハ人民ノ感觸如何ナリヤト謂フ是レ誤解ト謂ハサ  
ルヲ得ス若シ誤解ニ非レハ五番ノ憂ハ五分一ヲ超過スルニ在リト  
言ハンカ決シテ左様ニ非サルヲ知ル其故ハ地租ノ五分町村會ノ許  
諾ヲ得レハ五分一ノ外ニ徵收スルモ亦タ可ナリト言フヲ以テ証ス  
ヘキナリ左スレハ到底地方税ノ名稱ヲ不可トスルノ精神ニ過サル  
ナリ敢テ問フ従前ノ如ク民費ト稱シ幾許ノ利アルヤ地方税ト稱シ  
幾許ノ害アルヤ地租五分一モ其他ノ名稱ヲ以テ徵收スル者モ畢  
竟地方ノ公費ニ充ル者ナレハ皆税ト稱シテ可ナリ且ツ五番ニ於テ  
モ第二號ハ之レヲ可認セリ第二號ノ精神ハ從來地方ノ事務ト人民

ノ事務ト混同セシヲ以テ將來ハ之ヲ確定シ地方ノ事務ハ地方ノ負  
擔ニ歸スルニ在リ而テ其經費ヲ民費ト稱ス豈ニ之レヲ不適當ト言  
サル可ケンヤ其稱謂ヲ正クシテ名實適當ナルニ如カサルナリ更ニ  
一步ヲ進メテ論スレハ五番ノ說ハ民費ノ名ヲ假リテ人民ヲ籠絡セ  
ント欲スト謂フモ敢テ不當ノ言ニ非ルヘシ却テ憂慮ノ存スル所ヲ  
知ラサルナリト

○五番

細川潤次郎

大ニ憂フル所アルナリ政府完全無瑕ノ布令モ往々人

民ノ疑惑ヲ生スルコトナキニ非ス彼ノ血税ノ如キヲ以テ徵スルニ足  
ル況ヤ完全タラサル者ニ於テヤ既ニ昨年第二號ノ布告ヲ以テ地租  
五分一ノ限制ヲ立テラレタリキ而シテ今ニ及テ地方税トシテ之ヲ  
府縣ニ徵收シ従前其中ヨリ支辨シ來リシ町村ノ經費ハ將來町村ノ



協議ニテ之ヲ支辨ス可シ地方税ノ限リニ非ストセハ新ニ町村ノ經費ヲ増加スルハ論ヲ待スシテ明ナリ人民或ハ私語シテ謂ン昨年第ニ號ノ布告ハ政府ノ疎漏ニ出シ者ナラン其痕跡ヲ掩ン爲メニ朝四暮三ノ政畧ヲ以テ此新法ヲ設ケタリト政府ノ意此ニ非スト雖李下ノ冠瓜田ノ履ノ如ク其疑塊ヲ釋クニ殆ント辭柄ナカラントス然レハ人民腦裡ノ感觸如何ソヤ故ニ憂ヘサラント欲スト雖得ンヤ且ツ民費云云ハ誤解ナリト論スレトモ昨年ノ布告ハ讀テ字ノ如シ別ニ解説ノ下スヘキナカラシ又自家撞着ト云フ辨セン本案ニ曰ク町村限リ及市街ノ區限リノ公費ハ其町村區内人民ノ協議ヲ以テ支辨スヘシト此ノ如キハ全ク彼ノ自治ニ任スル者ナリ故ニ唯單ニ町村會ヲ設立スヘシト云ハ、全ク彼ノ自治ニ任スルノ嫌アリト雖之カ

規則ヲ設ケ之カ制限ヲ立テ若干ヨリ多カラス若干ヨリ少カラストシ他日自治ノ地ヲ成スハ一足飛ニ彼ノ自治ニ任スルト其得失如何ソヤ試ニ思エ牧民官ヲ民ノ父母ト云フ其子ヲシテ襁褓ニ在ラシムルト之ヲ放テ四方ニ行カシムルトハ其國ノ度ニ從テ之ヲ定メサル可ラス今此人民ヲシテ其自治ニ任ストセハ殆ント幼兒ニ家計ヲ托スルニ異ラス本官ハ其成丁ヲ待テ其自治ニ任セント欲スルノミ彼文明ノ國ニ於テモ邑税ニ制限ヲ立ツ制限外ノ一ニハ政府之レニ干渉セサレトモ然レトモ大範圍ハ踰ユ可ラスト爲ルニ非スマ且議場ハ訟庭ニ異ナリ原被兩造ニ非ストノ確言アリ本官ハ之ヲ守リ唯我主意ヲ述フルノミト

○十三番前島

五番ハ此法ハ朝四暮三ナリ税ノ名稱ハ人民腦裡ノ感



觸如何ナラン又々町村ノ公費ヲ稅外ニ支辨スルハ難シト論スト雖モ舊慣ニ依リ之ヲ變通スルトノ說ナレハ實際ノ狀況ヲ通觀シ已ムヲ得サル部分ノミ更改スルノ意見ナル可シ果シテ然ラハ何ソ必シモ廢棄ノ點ニ傾向スルヲ用ンヤ且修正案ニハ往々變通ノ所アレハ修正案ノ議場ニ登ルニ至ラハ廢棄ノ說ハ自ラ五番ノ腦裡ヨリ脫出セン且五番ハ戸數割ニ賦課ノ制限ナシトノ說アレトモ徵收スヘキ目ヲ着明ニ舉示セサレハ府縣會ニ於テ各色ノ稅目ヲ起シ或ハ區々ノ徵收法ヲ爲スモ測リ知ル可カラス故ニ之ヲ舉示スルハ即チ五番ノ町村ノ公費ニ制限ヲ立ルト同一趣ナリ旁以テ修正案ノ議場ニ登ルニ至ラハ五番ハ廢棄ノ說ヲ變シテ制限法ノ如何ヲ論及スルニ至ラント

○七番 佐野  
常民

本官ハ大旨ヲ可ナリト認ム然レトモ大ニ修正ヲ加ヘサレハ不可ナリ夫レ法律ヲ屢次變更スルヲ不可トスルノ精神ニ於テハ同意見ナリト雖モ本官ノ大旨ヲ可認スル所以ハ特ニ區々タル名義ノ變更ニ非スシテ大ニ政體ノ變更ニ及フヲ以テナリ其然ル所以ハ第二號ニ關係最モ大ナリトス我邦人民從來壓制ノ下ニ立チ政事ニ參與スルノ權ナシ而テ維新已來未タ數年ナラスシテ政事ニ關係スルノ權利ヲ與フルニ至リシハ汎ク公議輿論ヲ採ルノ聖旨ニ適ヘリト謂ヘシ就中地方稅ノ如キハ其協議ヲ以テ徵收支弁スルニ至リシハ著シキ進歩ニシテ世態ノ大變革ト謂サル可カラス之ニ由テ郡區ノ編制地方稅目ノ如キモ確定不拔ノ法ヲ立テサルヲ得ス是レ已ムヲ得サルノ變更ナレハ之ヲ施行シテ不可ナシトス然レトモ從前



ノ地租五分一ヲ地方税トナシ町村公費ハ人民ノ協議ニ任スト謂フニ至テハ必ス恐ルヘキ影響ヲ生センコトヲ憂慮スルハ五番ノ論スル所ノ如シ然ラハ則チ之ヲ處スル如何ト云フニ此度ノ改正ハ譬ヘハ府縣ト町村ト分家ヲナスカ如シ故ニ其財産ノ幾部分ヲ割テ町村ニ分與セサルヲ得ス其地方ノ事務ヲ分割スレハ費用モ亦タ從テ分割スルハ理ノ當然ナルモノナリ此分家獨立ヲ認テ五番ハ一足飛ナリト謂フ所謂一足飛ナル者ハ本官モ之ヲ好マスト雖此分家獨立ノ法ハ未タ必シモ一足飛ト謂フヘカラス尤獨立自治スヘキ者ナリト謂テ政府毫モ之ニ關係セサルキハ或ハ一足飛ノ憂ヲ免レスト雖既ニ公費ト謂フキハ關係セサルノ理由ナキナリ若關係スヘキ者ニ非スト謂ハ、政府ハ自ラ職掌ヲ棄ル者ト謂フヘシ必スヤ確乎タル規則

ヲ設ケ之レニ遵由シテ舉行セシムルニ非サレハ不可ナリ其不可ハ政府ノ業已ニ之ヲ認ム何ヲ以テ之ヲ知ル既ニ明治八年ニ町村會規則ヲ本院ノ議定ニ附セラレシコトアリ其事中止スト雖其精神ハ尙阿堵ノ中ニ存セン然ラハ政府早晚之ヲ施行セラル、ヲ信ス果シテ然ラハ此分家獨立ハ人民自治ノ氣力ヲ盛ニスル者ニシテ且公議輿論ヲ探ルノ聖詔モ貫徹セン故ニ本案ノ大旨ヲ可ナリトスト

○議長 時己ニ正午ヲ過キタルヲ以テ討論ヲ中止シ午餐後引キ續キ會ヲ開ク旨ヲ告ケ散會セシム

午後第一時開場

○議長 午前引續キノ會ナレハ直チニ討論ス可キ旨ヲ告ク

○十五番 福羽美靜 本案ハ即今之ヲ施行スルヲ不可ナリトス徐々時機ノ



至ルヲ待テ施行シテ可ナリ其故ハ地方税ト稱シ從前ノ民費府縣稅  
 ハ悉皆府縣ニ徵收シ而テ其事務ノ幾部分ヲ分割シ之ヲ町村ニ委任  
 シ其經費ハ町村ノ協議ニテ支弁セシムト豈之レヲ至當ノ處置ト謂  
 フヘケン乎之ニ加フルニ地方稅目中ニ戶數割ノ一項ヲ掲ク此ノ如  
 キ新法ヲ設ルヤ抑又々甚シト謂フ可シ或ハ全國中ノ一地方ニ於テ  
 舉行シタル者ナル可シト雖モ固ヨリ該地方ノ適宜ニシテ一般ノ公  
 認シタル者ニ非ルヘシ而シテ今此新法ヲ設ケ其賦課ノ制限ヲ舉示  
 セス蓋シ府縣會ノ議定ニ任スノ意ナラン果シテ然ラハ甚シキ不便  
 ヲ生ス可シ何トナレハ會議ノ決定ニ任スルハ各府縣其賦課ノ方法  
 ヲ異ニセン特ニ方法ヲ異ニスルノミナラス貧富同課ノ患ナキ能ハ  
 サルナリ維新以來百事緒ニ就クト雖モ德澤未タ人民ニ洽カラス僅

ニ昨年減租ノ聖詔第二號ノ布告アリテ人民無疆ノ幸福ヲ享ケタリ  
 然ルニ今此法ヲ急施セハ前ノ歡聲變シテ忽チ怨語トナラン且ツ舊  
 ニ慣レ新ヲ喜サル民情ニ對シ此新奇ナル改革ヲナサハ人民疑懼驚  
 恠ス可シ其極ハ必ス大ナル害アラントス故ニ民費ハ地租五分ノ一  
 ニ超過セサルヲ主義トナシ其止ムヲ得サル者ハ人民ノ協議ニ任ス  
 是誠ヲ以テ治ル者ト謂フヘシ然レトモ其之ヲ爲スハ先ツ府縣會ヲ  
 興シ洽ク公議ヲ採リ民心ノ歸向ヲ察シ時機ノ至ルヲ待ツテ始テ施  
 行スヘシ猶ホ維新ノ後チ諸大名ヲ廢シ藩知事トナシ又々廢藩置縣  
 ト爲セシ如ク徐々トシテ施行スルヲ可トス

○外一番松田道之 十五番ノ說ニ於テ一言ヲ費サ、ルヲ得ス十五番ノ說  
 ハ約子五番ト同趣ナリ其論旨タルヤ地方稅ヲ悉皆府縣ニ徵收シ其



事務ヲ分割シテ町村ニ委任スト言フニ外ナラス夫レ地方税ハ國税ト性質ヲ異ニス故ニ出スヲ量テ入ルヲナスモノナリ此ヲ以テ地方事務ノ繁簡ニ依テ其税額モ亦タ増減アルハ論ヲ待タス故ニ府縣ノ事務ノ幾分ヲ町村ニ分割スレハ其事務ノ減シタル額ハ税モ亦タ隨テ減ス是レ數ノ最モ見易キモノナリ尤從來ハ別ニ町村ノ費目ヲ立テスト雖其費用ハ府縣税及民費ノ中ヨリ之ヲ支給セシ者ナリ此度ノ改正ハ特ニ其區分ヲ判然タラシムルニ在ルノミ又タ昨年減租ノ詔ト第二號ノ布告トヲ引用シテ休養ノ旨ニ違フトノ言ハ此案ニ對シテ不適當ト言フヘシ何則其言ハ事業ヲ起ス始メニ當テ論及スヘキコナリ本案ハ事業ヲ爲スニ付テノ規則ナリ地方税ハ府縣會ノ承諾ニ因テ其多寡ハ其民力ノ如何ヲ酌量シテ定ムルモノナレハ

是ヲ休養ノ道ニ非スト謂フコト得ンヤ又タ本案急施ヲ要セス先ツ府縣會ヲ起シ徐々ニシテ其時機ノ至ルヲ待テ施行ス可シト言ト雖其府縣會ハ地方ノ經費ヲ除テ何等ノ事項ヲ議セントスルヤ從前民費ヲ徵收スルノ法區々ニシテ人頭ニ課スルアリ戸數ニ課スルアリ財産ニ課スルアリ既ニ廢セラレシ石高ニ課スルアリ其不公平ナル一ニシテ足ラス此ノ如キ不公平ナルモノハ之ヲ一洗シ公平ニ歸セシムルハ當然ノ事ニ非スヤ然ルヲ更正セス徒ラニ府縣會ノミヲ興サントスルノ主意ナルカ

○十五番 福羽 美靜 本案ハ時機ヲ竣テ施行スヘシト陳セシカ委員ノ駁議ヲ得タリ之レヲ辨セサルヲ得ス本官ノ憂フル所以ンハ所謂地方税ナル者ヲ創設シ從前ノ民費ヲ一括シテ之ヲ府縣ニ徵收シ町村ノ公



費ハ町村ニテ負擔シ之レヲ支辨ス可シト云フノ一點ニアルナリ之  
 ヲ駁スル委員ノ説ニ地方ノ事務省ケハ從テ經費モ減ス可シト是レ  
 大ニ恠ム可キナリ本案第一條ノ從前府縣稅及ヒ民費ノ各ヲ以テ徵  
 收セル府縣費區費ヲ改メ更ニ地方稅トナシ云云ノ文字ヲ咀嚼玩味  
 スルニ委員ノ説ノ如キ主意ヲ含蓄ストハ認メ得ス若シ果シテ其主  
 意ナリトセハ小區ノ經費ヲ兩截シテ幾分ハ府縣ニ入り幾分ハ町村  
 ニ歸ストセサル可ラス蓋シ全國中小區ノ數約チ七千有余其小區ニ  
 消費セシ經費ハ之ヲ分割シテ三十余ノ府縣ニ納ル、者若干數十萬  
 ノ町村ニ還附スル者若干トセサル可ラス其變更タル豈容易ニ議ス  
 ヘキニ非ス故ニ先ツ府縣會ヲ與シ實際ノ狀況ヲ詳悉シ民心ノ歸嚮  
 ヲ察シ而シテ後チ施行ス可シト謂フナリト

○議長討論ノ既ニ盡キタルヲ認メ本案大旨ノ可否ヲ決ス可キ旨ヲ演  
 述シ本案ヲ否トスルモノヲ起立セシム

起立者四人 少數

○十五番 福羽美靜 本官更ニ建議スルコトヲアラントス本案ノ大旨ハ既ニ可

ト決シタレハ第一讀會ニ於テ議案ノ全部ヲ依托セシ委員ノ修正案  
 ヲ以テ本案トナシ議定セラレシコトヲ欲スト

○七番 佐野常民 十五番ノ建議ヲ賛成ス

○議長十五番ノ建議七番之ヲ賛成シタルヲ以テ十五番ニ同意ノ者ヲ  
 起立セシム

起立者十一人 多數

○議長明廿九日引續キノ會ヲ開ク旨ヲ演述シ散會セシム



午後第二時二十分閉場

元老院會議筆記明治十一年六月三日

○第一百號議案地方官會議ニ於テ議定セシ第二號第二讀會五月三十一日

ノ續

議長有栖川  
熾仁

出席議員

- |    |       |
|----|-------|
| 一番 | 津田 真道 |
| 三番 | 山尾 庸三 |
| 四番 | 大久保一翁 |
| 六番 | 柳原 前光 |
| 七番 | 佐野 常民 |
| 九番 | 河野 敏鎌 |



十番	東久世通禧
十二番	秋月種樹
十三番	前島密
十五番	福羽美靜
十六番	大給恒
十七番	山田顯義
十九番	陸奥宗光
廿二番	中島信行
廿五番	岩下方平

内閣委員番外一番 太政官大書記官松田道之

午前第十時三十分開場

○議長 第一百一號議案即チ地方官會議ニ附セラレタル第二號議案第二讀會ノツ、キヲ開ク旨ヲ告ク

○書記官戸田秋成 左ノ條ヲ朗讀ス

第二章 撰擧

第十條 府縣會ノ議員ハ每郡區ヨリ三人ヲ撰フ

○七番佐野常民 本案ノ三人ハ郡ノ大小ニ關セスシテ定メタルナリ原案ノ二人ヨリ少カラス五人ヨリ多カラスハ郡ニ大小アルヲ以テノ意ナリ共ニ其宜シキヲ得サルニ似タリ何則郡ノ大小ニ關セサルキハ壹萬人ノ小郡ニテモ三人ヲ出サ、ルヲ得ス十萬人ノ大郡ニテモ三人ヲ超過スルヲ得ス壹萬人ト十萬人ト八十倍ノ差アルナリ既ニ長崎縣ノ壹岐ノ如キハ其人口二萬人ニ滿タス而シテ之ヲ分テ二郡



トス三人ヲ以テ定數トナスルハ六人ヲ出サ、ルヲ得ス之ヲ他郡ニ  
比スルルハ平均ヲ得サル者ト謂フヘシ故ニ本官ノ考案ハ人口ノ割  
合ヲ以テ議員ノ數ヲ定ムルニ若カストス然ルルハ壹岐ノ國ニシテ  
六人ヲ出スカ如キ不平均ヲ生セサルナリ其法如何ト言ヘハ人口壹  
萬ニ滿タサル者ハ壹人壹萬以上ハ貳人四萬以上ハ貳萬每ニ一人ヲ  
加フルナリ其文ハ府縣會ノ議員ハ每郡區其人口一萬ニ滿タサル者  
ハ一人ヲ撰ヒ一萬以上ハ二人ヲ撰ヒ四萬以上ハ二萬每ニ一人ヲ加  
フニ作ラントス此ノ如クナルルハ一萬ニ滿タサル者モ三人十萬ニ  
滿ル者モ三人トナルカ如キ不平均ヲ生セス又議員ノ數ノ少ナキヲ  
嫌テ妄ニ郡ヲ分割セント欲スルノ弊ナカルヘシ

○六番柳原前光 七番ノ修正アリ本案ハ三人ヲ撰ムト爲シタリ全ク原案

ノ二人ヨリ少ナカラス五人ヨリ多カラスハ漠然ニ過ルヲ以テ仍テ  
本案ノ如ク三人ト爲シタルナリ其後熟考スルニ區域名稱ハ惣テ舊  
ニ依ルノ精神ナリ且大郡ヲ分割スルハ時アリテ之レ有ルモ小郡ヲ  
合併スルノ明文ナシ況ヤ大郡モ必シモ分割スヘキ者ニ非サルヲヤ  
越後ノ如キ蒲原ハ殆ント三ヶ國ヲ併セタル如シ其他ハ之ニ反シテ  
甚小ナルモノアリ然ラハ平均ヲ失フノ言決シテ過言ニ非サルナリ  
元來議員ノ數ヲ定ムルハ土地ノ區域ヲ以テスルヨリモ寧ロ人口ニ  
分賦スルヲ以テ公平トス然ラハ七番修正ノ如キハ本案ヨリ一層善  
美ヲ加フヘシ仍テ賛成ス

○議長 七番ノ修正說ニ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス旨ヲ告ク

○十六番大給恒 七番ノ修正ハ備ハリタル說ナリ本官モ之ヲ人口ニ分



賦スルノ論ヲ持セリ七番ノ修正ハ先ツ我カ心ヲ得タリ但シ人口ノ  
調査ニ煩勞アルヘシト雖然レモ撰擧ハ毎年之ヲ爲スニアラス二年  
毎ニ一度之ヲ爲スモノナレハ左程ノ煩勞トモ謂フヘカラス仍テ七  
番ニ同意ス

○九番河野 敏録 本案ヲ可トス七番ハ每郡區ヨリ撰ムヲ不公平トシ人口  
ノ割合ニ由ラサルヘカラスト論スト雖本官ハ七番ノ修正ニ於テモ  
公平ナリトセス何トナレハ一萬人以上二人ヲ撰フトスレハ壹萬ト  
九千九百九十九人トハ唯一人ノ差ノミ僅カニ一人口ノ故ヲ以テ議  
員ノ數ニ差異ヲ生ス豈公平ト謂フヘケンヤ眞ニ公平ヲ得ント欲セ  
ハ竈數ヲ以テ之ヲ取ルハ稍公平ニ近キカ如シ然レモ本官ノ考按ハ  
差向キ簡辨ヲ主トシ煩雜ヲ除クニ在リ然ラスンハ人民未タ遍ク會

議ノ何物タルヲ知ラサルヲ以テ之ヲ厭フノ念ヲ起スニ至ラン或ル  
議官ハ人口ノ調査難カラスト云フト雖モ地方ニヨリ増減常ナキ者  
アリ七番ニ於テ長崎縣ノ壹岐ヲ以テ証セラレシカ本官モ亦其鄰縣  
ナル熊本ヲ以テ証セン同縣ノ如キ菊地阿蘇兩郡ノ如キ人口年々ニ  
減シ之ニ反シテ天草島原ノ如キ八年々ニ増加ス之ヲ推スハ他ノ  
地方ニ於テモ猶ホ此ノ如キ者アラン果シテ然ラハ人口ノ調査決シ  
テ易キニ非サルナリ且歐洲諸國ニモ人口ニ分賦スルノ制アリト雖  
モ一般盡ク然ルニ非ス仍テ本案ノ如キ簡單ナル制ヲ可ナリトス

○十三番前島 密 本官モ九番ノ說ノ如ク人口分賦ハ公平ヲ求メテ却テ  
公平ヲ失スル者トス而シテ本案モ亦未タ公平ヲ得ル者ト謂フヘカ  
ラス何トナレハ隱岐ノ如キハ六郡ニ分カツ若シ必ラス郡區三人ト



爲サハ十八人ノ議員ヲ出スニ至ラン最爾タル小國何ソ此ノ如ク多  
キヲ要セン仍テ本條ニ但書ヲ加ヘテ其過不及ヲ救ハントス是レ小  
郡ノ爲メノミナラス大郡ヲ分割スルニ於テモ肝要ナルヘシ其文ハ  
但○郡○ノ○狹○小○ニ○シ○テ○數○郡○ニ○一○郡○長○ヲ○置○ク○モ○ハ○一○郡○ト○見○做○シ○其○廣○濶○  
ニ○シ○テ○一○郡○ヲ○數○郡○ト○爲○ス○モ○ハ○各○郡○ニ○付○キ○三○人○ヲ○撰○フ○ト○爲○サ○ハ○小  
郡ニシテ三人ヲ出スニ及ハス即チ隱岐ノ如キハ一郡ト看做シテ三  
人ヲ出シ越ノ蒲原ノ如キハ亦數人ヲ出スコヲ得ヘシ此ノ如ク但書  
ヲ加ヘント欲スルカ故ニ七番ニ同意スル能ハス

○六番柳原前光 本官ハ七番ノ說ヲ賛成ス或ハ本案ヲ可トスルノ說アリ  
或ハ但書ヲ加フルノ說アリ既ニ衆說分裂セリ本官ノ考案ハ每郡區  
ヨリ三人ヲ撰ムト爲サハ大郡蒲原ノ如キアリ又小郡隱岐ノ如キア

リ假令之ヲ分合スルヲ得ヘシトスルモ(舊ニ依ル)ハ法案ノ精神ナレ  
ハ到底廣狹ノ差違ハ免カレサルナリ然ラハ人口ニ分賦スルノ允當  
ナルニ若カス

○七番佐野常民 人口ニ分賦スルキハ壹人ノ多少ニテ議員ノ差異ヲ生ス  
ト論スト雖其レハ己ムヲ得サルノ事ニシテ歐洲各國ニ於テモ亦此  
ノ如キニ過キス唯郡ノ大小ニ關セスシテ議員ノ數ヲ極ムルキハ小  
郡大郡同數ナルヲ以テ人々我カ郡ノコヲ主張スルノ情狀ヨリ分割  
ノ說ヲ唱ヘテ止ムコナケン人口ニ分賦スルハ煩雜ヲ生スルノ說ア  
レモ大數ヲ豫シメ調査シ置カハ毎年大差違ナカルヘシ殊ニ人口ノ  
調査ハ地方官ノ職務上最モ緊要ナル者ナレハ之ヲ煩雜ト謂テ可ナ  
ランヤ



○十九番 陸奥 宗光

本案ヲ可トス必シモ人口ヲ以テ撰ムヲ要セス第一人  
口ニ分賦スルハ煩雜ナリ若シ總撰擧ノ法ナラハ人口ニ分賦セサル  
ヘカラスト雖總撰擧ノ法ニ非サルヲ以テ決シテ不公平ニ非サルナ  
リ畢竟四百圓以上ノ地券ヲ所有スルモノ、撰擧ニ止ルナリ又小郡  
ハ人口少ナシト云フ説アレト從前草高ノ上リタル地ハ膏腴ノ地ナ  
リ地狭キモ人多シ草高ノ下リタル地ハ之ニ反ス奥羽ハ土地廣濶ナ  
レト人口少ナク上方ハ土地狭少ナレト人口多シ小郡必シモ人口多  
ク大郡必シモ少ナキニ非ス是土地ノ膏腴ト確薄トニ由ルナリ果シ  
テ然ラハ小郡ノ三人モ未タ以テ多シトスヘカラスト大郡ノ三人モ亦  
未タ以テ少シトスヘカラスト且本案ノ精神ハ郡ノ大小ニ關セス人口  
ノ多寡ニ關セス四百圓以上ノ土地ヲ所有スル者多ク住スルノ場所

ハ隨テ撰擧ノ權ヲ多ク有スルナリ是議案ノ性質然ラシムト謂フヘ  
シ若シ人口ノ割合ヲ以テ定ムルヲ可トセハ東京ノ如キハ假ニ一大  
區ヲ十萬人トシ六大區ヲ通シテ人口ニ分賦スレハ三十人ノ議員ト  
ナルヘシ一府ノ議員豈此ノ如キノ多キヲ要センヤ各議官ノ諸説ハ  
彼レニ長スレハ此ニ短ナリ旁以テ本案ヲ可ナリトス

○十三番 前島 密

每郡區ヨリ三人ヲ撰ムト云フキハ必ス三人ヲ撰ハサ  
ルヲ得ス然ルニ數郡ヲ合シテ一郡長ヲ置クカ如キ毎小郡ニ三人ヲ  
出スハ法ノ得タル者ニ非ス故ニ前議ノ如ク但書ヲ加ヘント欲ス

○七番 佐野 常民

十九番ノ説ハ簡單ニシテ行ヒ易シ然レト最初二人トア  
リシヲ地方官ニテ二人ヨリ少カラスト五人ヨリ多カラスト修正シタ  
ル意ヲ推究スルニ事實ニ障礙ヲ生スルヲ恐ル、ユヘナリ十三番ノ



但書ト云フモ同意ナルヘシ本官ノ説ハ煩勞ナリ然レモ其煩勞ヲ爲  
 サスレハ更ニ其煩勞ヨリ甚シキ害アルヘキヲ憂フ又撰擧ノ精神ハ  
 四百圓以上ノ地券ヲ所有スル者ニ止ム故ニ人口ニ關セスト論スト  
 雖其制限ハ止ムコトヲ得サルナリ歐洲各國モ貧富ヲ以テ其權利ヲ區  
 別セリ故ニ其制限ハ止ムコトヲ得サルナリ又土地ノ廣狹ニ因テ人口  
 ノ多寡ヲ定ムヘカラサルハ固ヨリ然リト雖既ニ小郡ニテモ膏腴ナ  
 レハ人口多ク大郡ニテモ確薄ナレハ人口少シト云ハ、猶更人口ノ  
 割合ヲ以テ之ヲ定メサルヘカラス

○廿二番 中島 信行 本官ハ七番ノ修正ニ同意ス其理ハ此修正案ハ本官モ  
 同シク委員ナリ其時原案ノ二人ヨリ少カラス五人ヨリ多カラスハ  
 事實障碍アリ仍テ一定ノ方法ヲ立ツヘシト爲シ即チ三人ト爲シタ

ルナリ而後再思スルニ此モ亦未タ以テ一定ノ方法ト謂フヘカラス  
 然ルニ七番ノ修正ハ旨意モ可ニシテ實施上モ可ナリトス歐洲ノ例  
 ヲ以テスルモ大抵此ノ如シ其一萬人ノ郡モ十萬人ノ郡モ同數ノ議  
 員ヲ出スハ宜シカラス十九番ノ草高云々ノ説ハ即チ人口ヲ以テ定  
 ムルノ適當ナル例ナリ又煩勞ナリトノ説アリ固トヨリ會議ヲ爲ス  
 ニ於テハ止ムヲ得サルノコトニシテ其煩勞ヨリ利益ヲ生セハ亦悅フ  
 ヘキナリ

○十七番 山田 顯義 本官ハ内閣ノ原按ヲ可トス其他ノ論ニハ同意セス

○一番 津田 眞道 七番ノ修正ニ同意ス凡ソ極點ヲ論セハ公平ヲ得ル能ハ  
 ス天下ノコト皆然リ故ニ稍々公平ニ近ク且平均ヲ得ルモノヲ以テ可  
 トスタトヘハ府縣會ノ會議ヲ決スルモ可否同數ナルトキハ議長之



○ヲ決ス議長ヲ合セテ只一人ノ差ヲ生スルノミ然レモ其一方ニ決ス而シテ之ヲ公平ト云フ故ニ議員ヲ撰ムノ方法モ公平ニ近キモノヲ取ルヘシ即チ人口ニ分賦スルハ公平ニ近キモノナリ歐洲ノ例亦然

○十三番前島密

人口ノ調査ハ寄留本籍等ノ混雜アリテ實際未タ爲シ易カラサルコアリ本案ノ如ク定數ヲ立テ而シテ但書ヲ加フルヲ可トス

○七番佐野常民

人口ノ調査ハ爲シ易カラスト云フトモ政府既ニ三千三百何ヤト報告ス豈調査セスシテ報告スルノ理アラシヤ元來人民アリテ政府アリ況シヤ地方官ハ之ヲ管轄シ郡區廳ハ亦其實際ヲ知ルヘシ之ヲ分明ナラストスルノ説ハ取ルニ足ラスト確信ス其調査ノ

易カラサルヨリシテ修正ヲ不可ナリト云フハ了解セサルナリ

○議長 七番ノ修正ニ同意ノ議官ヲ起立セシム

起立者八人

○議長 多數ニヨリ七番ノ修正ニ決スル旨ヲ告ク

○書記官戸田秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ公選シ府知事縣令之ヲ認可スヘシ議長副議長及ヒ議員ハ俸給ナシ但會期中滞在日當及ヒ往復旅費ヲ給ス其額ハ會議ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

○議長 本案ヲ可トスル者ヲ起立セシム

起立者十四人

○議長 多數ニヨリ本案ニ決スル旨ヲ告ク



○書記官戸田秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第十二條 議長ハ書記ヲ選ヒ庶務ヲ整理セシム其俸給ハ會費ノ中ヨリ之ヲ支給ス

○議長 本案ニ同意ノ者ヲ起立セシム  
全員悉起立

○議長 本案ハ全會一致之ヲ可トスルノ旨ヲ告ク

○書記官戸田秋成 左ノ一條ヲ朗讀ス

第十三條 府縣ノ議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿二十五歳以上ノ男子ニシテ其府縣内滿一年以上住居シ其府縣内ニ於テ地租五圓以上ヲ納ムル者ニ限ル但左ノ各款ニ觸ル者ハ議員タルコトヲ得ス

○十二番秋月種樹 (但左ノ各款ニ觸ル、者ハ云々)トアリ各款ト云フハ

四款ヲ通シテ言フモノ、如シ仍テ各ノ字ヲ刪ラント欲ス

○議長 十二番ノ説ハ賛成者ナキ旨ヲ告ク

○十三番前島密 本官ハ本案(府縣内)ヲ内閣ノ原案ニヨリ(郡區内)ト爲ント欲ス假令一府縣内ノ事ヲ議スルモ撰舉人ハ其郡區内ノ事ヲ熟知スルモノヲ得ント欲スルハ人情ナリ故ニ原案ノ如ク郡區内ト爲サント欲スト

○議長 時已ニ正午ニ及ヒタルヲ以テ午後引續開場ノ旨ヲ述ヘ散會ヲ命ス

正午十二時閉場

午後第一時開場

闕席 三番 山尾 庸三